

講義概要

SYLABUS 2024



学校法人 有坂中央学園

CAN 中央動物看護専門学校

目 次

学園の沿革	-----	1
教育の基本方針	-----	2
各種検定一覧	-----	3
履修科目一覧	-----	4
実務経験のある教員による授業科目一覧	-----	7
講義概要	-----	10
・動物看護学科	愛玩動物看護師専攻（1・2年）	
	動物看護専攻（3年）	
・動物飼育学科	動物園飼育員専攻（1・2年）	
	水族館飼育員専攻（1・2年）	
	牧場スタッフ専攻（1・2年）	
・動物美容学科	ペット美容トリマー専攻（1・2年）	

学園の沿革

- 1942年 9月 有坂学園『前橋服装女学院』創立。初代校長に有坂作太郎が就任する。
- 1952年 7月 北関東初の簿記会計の専門校として『有坂学園・前橋商業学校』に改称する。
- 1965年 4月 『有坂学園・前橋高等経理学校』に校名を改称する。
- 1974年 9月 第2代校長に有坂作太郎の長女である中島芳子が就任する。
- 1976年 4月 創立35周年を迎え、総合経理の専門学校として歩み出す。
- 1983年 10月 第3代校長に山中庄太郎(元県出納長)が就任する。
- 1985年 3月 新校舎完成。群馬の中央・頭脳都市新前橋に移転する。
- 1986年 4月 産能短大と提携。県下初のダブル・スクール制度を採用する。
- 1988年 5月 『中央情報経理専門学校』に校名を変更する。
- 10月 全国経理学校協会女子ソフトボール関東大会初出場初優勝。
- 1990年 4月 経理と情報教育を充実させるため本館・2号館・3号館に近代的な設備を完備する。
- 1991年 7月 産学一体の教育を目的に人事交流連絡会『人材育成フォーラム』を発足する。
- 1992年 7月 全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、電卓の部優勝。
簿記の部、珠算の部も上位入賞を果たす。
- 9月 創立50周年を迎える。
- 1997年 4月 情報処理検定にて全国1位の成績に贈られる『広中平祐賞』を受賞する。
- 1998年 4月 中央情報経理専門学校太田校(太田市)創立。
中央工学院専門学校(前橋市)創立。
- 7月 全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技関東大会において、3部門すべて上位入賞し、全国大会出場を果たす。
- 1999年 4月 中央高等専門学院(前橋市)創立。
- 2000年 1月 早稲田コンピュータ専門学校(高崎市)がグループ校に加わる。
- 2001年 4月 高崎ビューティモード専門学校(高崎市)創立。
- 2001年 11月 ISO9001を高等教育機関において全国初で認証を受ける。
- 2002年 9月 創立60周年を迎える。
- 2003年 4月 中央医療歯科専門学校太田校(太田市)創立。
- 2004年 4月 中央医療歯科専門学校に校名変更。
- 2004年 7月 全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技会関東大会において、簿記の部優勝。
電卓の部、珠算の部準優勝。
- 9月 全国経理学校協会簿記・珠算・電卓競技会全国大会において、簿記の部準優勝。
電卓の部6位。
- 2005年 4月 群馬法科ビジネス専門学校(前橋市)、高崎ペットワールド専門学校(高崎市)創立。
- 12月 全国専門学校ロボット競技会において全国優勝。ハードウェア部門優勝・3位。
- 2006年 4月 中央工学院専門学校と中央情報経理専門学校のデジタルデザイン科が統合して、中央工科デザイン専門学校と校名変更。
- 2006年 7月 全国経理教育協会簿記・珠算・電卓競技会関東大会において、簿記の部、電卓の部準優勝。
- 9月 全国経理教育協会簿記・電卓競技会全国大会において、簿記の部優勝。
電卓の部準優勝。簿記個人の部においても、1位から3位まで入賞。
- 2007年 9月 全国経理教育協会簿記・電卓競技会全国大会において、簿記の部2年連続優勝。
- 12月 全国専門学校ロボット競技会においてハードウェア部門準優勝。
- 2009年 3月 中央工科デザイン専門学校(前橋市古市町)移転。
- 2011年 4月 中央農業グリーン専門学校(前橋市南町)創立。
群馬法科ビジネス専門学校桐生校(桐生市)創立。
- 2012年 9月 創立70周年を迎える。
- 2014年 3月 文部科学大臣認定 職業実践専門課程の認定を受ける。
- 2016年 4月 高崎ペットワールド専門学校(前橋市古市町)移転。
中央動物看護専門学校に校名変更
- 2017年 4月 中央医療歯科専門学校高崎校(高崎市)創立。
- 2018年 4月 中央情報経理専門学校高崎校を中央情報大学校に校名変更。
中央農業グリーン専門学校を中央農業大学校に校名変更。
- 2019年 12月 中央動物看護専門学校が群馬サファリワールドと職業教育連携。
- 2020年 7月 前橋東洋医学専門学校がグループ校(前橋市)に加わる。
- 2021年 4月 前橋東洋医学専門学校を中央スポーツ医療専門学校に校名変更。
- 2022年 3月 中央動物看護専門学校が北軽井沢地域と包括的職業教育連携。
- 2022年 9月 創立80周年を迎える。第四代理事長に中島慎太郎が就任する。
- 2024年 2月 全国選抜トリマー選手権大会においてミドル部門で準優勝。

中央動物看護専門学校 教育基本方針

○建学精神

『人と動物の絆』

○教育目標

『動物福祉の精神に立ち動物を慈しむ優しい心を持つ』

・人と動物のより良い関係づくりを目指し人と動物の両者に対して情熱を傾けられる人材

『失敗から学ぶ心と方法を知る』

・試行錯誤を通して、仕事を学ぶ「心」と「方法」を体得できる人材

『スペシャリストに必要な知識と技能を身に付ける』

・動物看護・動物飼育・動物美容の知識とスキルを学び、その専門性を広く応用できる人材

『豊かな人間性とビジネスマナーを兼ね備える』

・社会で活躍するために必要な豊かな人間性と飼い主とのより良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を兼ね備えた人材

○学園標語

『思いやりの心、感謝の心、奉仕の心』

○学科概要

●動物看護学科

・愛玩動物看護師専攻

動物病院などで、獣医師のパートナーとして活躍する動物看護師。その業務は獣医診療や検査・手術の補助、飼い主に対する健康管理指導など数多く、確かな知識と技術、責任感が求められる。本学科では基礎看護学をはじめ動物病院業務を実践的に学習する。

●動物飼育学科

・動物園飼育員専攻

絶滅の危機に瀕している野生動物を守る為の役割を担う動物園やサファリパークで動物の生態を管理する仕事である動物飼育員。飼育のプロによる指導で愛玩動物から野生動物まで幅広い動物種に対応できる知識や技術を磨き、即戦力となるよう実践的に学習する。

○基本方針

本校では、所定の年限の課程を通じて、高度な知識と技術を修得し、社会に貢献できる豊かな人間性を身につけることを最大の目標としている。

社会は、単に言われた通りに仕事ができる人間ではなく、与えられた環境の中で何を試すべきかを考え、その実現の為に自らの意思で行動できる明るく積極的な人間を求めている。このことは、人から教えてもらうのではなく、さまざまな体験を通じて事実をつかむ眼、本質を見抜く力を養い、そして、そこで生ずる問題を自分の問題としてとらえる力を身につけることにより学べるものである。実社会で最も必要としている問題解決能力とは、まさにそのことの実践でもある。

『体験から学ぶ』ことの大切さを理解し、自ら学び、自ら行動することを目指し、学生生活が有意義に送れるよう心がけることを学生に望む。特に学習活動のみならず学校内外の諸活動、仕事体験など、幅広い「体験」から「学ぶ」ことによって、一人ひとりのアイデンティティを高めていくことを本校の真の狙いとしている。

○具体的方針

『やって・見て・考える』

様々な行事体験から問題解決の実践により「事実の本質」を体得する。また PDCA サイクルを理解し仕事に活かす。

・水族館飼育員専攻

水生動物の生態を学び、水族館で生活する動物の健康を守る水族館飼育員。水生動物はもちろん、それらの動物たちの生育環境を護るために必要な知識や技術を磨く。

・牧場スタッフ専攻

畜産動物の飼育方法を学ぶと同時にアニマルウェルフェアについて理解を深める。動物たちのストレスに配慮した飼育環境や接し方なども学ぶ。観光牧場等でパフォーマンスができるための技術も身につける。

●動物美容学科

・ペット美容トリマー専攻

シャンプーやカット技術、内面からの健康にアプローチをかけるエステやアロマなども学ぶ。お客様へのビジネスマナーも学び、様々な職場で活躍することができる知識、技術を身につける。

各 種 検 定 一 覧

種 目	主 催	試 験 時 期
動物看護分野		
愛玩動物看護師（国家資格）	動物看護師統一認定機構	2027年2月
動物健康衛生管理検定	全国動物専門学校協会	毎年9月、1月
ペット栄養管理士認定試験	日本ペット栄養学会	2025年12月（2年次10月以降）
動物飼育分野		
動物飼育管理士	日本動物飼育協会	2023年5月、12月
愛玩動物飼養管理士	日本愛玩動物協会	2024年11月
ペットフード・マナー検定	日本ペットフード協会	奇数月
生物分類技能検定	自然環境研究センター	2024年8月、9月
潜水士（国家資格）	安全衛生技術試験協会	2024年6月、7月、9月、12月 2025年2月
グリーンセイバー	樹木・環境ネットワーク協会	6月
ビオトープ管理士	日本生態系協会	6月1日～8月13日
スクーバダイビング	PADI	2024年8月
乗馬ライセンス	全国乗馬倶楽部振興協会	2024年8月
美容分野		
サロントリマー検定	全国動物専門学校協会	2024年9月、1月
PEIA ゴールド	ペットエステティック国際協会	履修後
PEIA シルバー	ペットエステティック国際協会	履修後
PEIA ブロンズ	ペットエステティック国際協会	履修後
ビジネス分野		
社会人常識マナー検定	全国経理教育協会	2025年6月、9月 2026年1月
電話対応技能検定	日本電信電話ユーザ協会	毎月第1水曜日

※試験時期は前年度実績に基づいて算出しておりますので、変更になる可能性もあります。

履修科目一覧

動物看護学科												
愛玩動物看護師専攻				愛玩動物看護師専攻				動物看護専攻				
1年次				2年次				3年次				
科目	前期	後期	貢	科目	前期	後期	貢	科目	前期	後期	貢	
動物形態機能学	○	○	11	動物繁殖学	○		29	比較動物学	○	○	51	
動物行動学		○	12	動物栄養学	○	○	30	動物薬理学	○	○	52	
動物関連法規	○		13	動物病理学		○	31	公衆衛生学	○	○	53	
動物看護学概論		○	14	動物感染症学Ⅱ	○	○	32	動物内科看護学Ⅲ	○		54	
動物感染症学Ⅰ		○	15	動物内科看護学Ⅱ	○		33	動物臨床看護学各論Ⅱ	○	○	55	
動物内科看護学Ⅰ	○		16	動物外科看護学Ⅱ	○		34	動物生活環境学		○	56	
動物外科看護学Ⅰ	○		17	動物臨床看護学各論Ⅰ	○	○	35	動物形態機能学実習		○	57	
動物臨床看護学総論		○	18	人と動物の関係学	○		36	動物内科看護学実習Ⅲ		○	58	
動物臨床検査学	○		19	適正飼養指導論	○	○	37	動物外科看護学実習Ⅲ	○		59	
愛玩動物学	○	○	20	ペット関連産業概論		○	38	動物臨床看護学実習Ⅱ	○		60	
動物内科看護学実習Ⅰ	○	○	21	動物内科看護学実習Ⅱ		○	39	動物看護総合実習Ⅲ	○		61	
動物外科看護学実習Ⅰ		○	22	動物臨床検査学実習	○	○	40	グルーミング実習Ⅲ	○		62	
動物看護総合実習Ⅰ		○	23	動物外科看護学実習Ⅱ		○	41	動物飼育管理実習Ⅲ	○	○	63	
グルーミング実習Ⅰ	○	○	24	動物臨床看護学実習Ⅰ		○	42	応用動物看護学実習	○		64	
しつけトレーニング実習Ⅰ		○	25	動物愛護・適正飼養実習		○	43	動物介護学	○		65	
検定対策Ⅰ	○		26	動物看護総合実習Ⅱ		○	44	国試対策		○	66	
就職実務Ⅰ	○		27	グルーミング実習Ⅱ	○		45	検定対策Ⅲ	○	○	67	
特別課外授業	○	○	28	しつけトレーニング実習Ⅱ	○		46	就職実務Ⅲ	○		68	
				動物飼育管理実習Ⅱ	○	○	47	パソコン実習	○		69	
				検定対策Ⅱ		○	48					
				就職実務Ⅱ	○	○	49					
				動物医療コミュニケーション	○		50					

履修科目一覧

動物飼育学科							
動物園飼育員専攻・水族館飼育員専攻・牧場スタッフ専攻							
1年次				2年次			
科目	前期	後期	頁	科目	前期	後期	頁
動物飼育学	○	○	70	動物感染症学	○		86
海洋生物学	○	○	71	動物基礎栄養学	○		87
家畜飼育学	○	○	72	小動物飼育概論	○	○	88
愛玩動物飼養管理士学	○	○	73	飼育健康管理学	○	○	89
生態学	○	○	74	動物健康管理学	○	○	90
動物解剖生理学	○	○	75	植物療法	○		91
公衆衛生・関連法規	○	○	76	自然環境保護	○		92
飼育総合演習	○	○	77	アクアリウム演習		○	93
校外飼育実習 I	○	○	78	環境教育学		○	94
動物飼育実習	○	○	79	動物園学※1	○	○	95
動物総合実習 I		○	80	水族館学※2	○	○	96
検定対策 I	○	○	81	畜産学※3	○	○	97
ビジネスマナー	○	○	82	校外飼育実習 II	○	○	98
就職実務 I	○		83	動物飼育実習 II	○	○	99
就職実務 II		○	84	飼育総合演習 II	○	○	100
特別課外授業	○	○	85	動物総合実習 II	○	○	101
				検定対策		○	102
				就職実務 II	○	○	103
				SNSリテラシー		○	104
				スポーツトレーニング実践	○	○	105

※1 動物園飼育員専攻のみ

※2 水族館飼育員専攻のみ

※3 牧場スタッフ専攻のみ

履修科目一覧

動物美容学科							
ペット美容トリマー専攻							
1年次				2年次			
科目	前期	後期	頁	科目	前期	後期	頁
ペットエステ・美容学Ⅰ	○		106	ペット美容学Ⅲ	○		124
ペットエステ・美容学Ⅱ		○	107	ペット美容学Ⅳ		○	125
公衆衛生・動物関連法規	○		108	ペットエステ学Ⅲ	○		126
エキゾチックアニマル学		○	109	ペットエステ学Ⅳ		○	127
ペット栄養学	○		110	犬・猫の病気Ⅱ	○		128
犬・猫の病気		○	111	グルーミング実習Ⅲ	○		129
グルーミング実習Ⅰ	○		112	グルーミング実習Ⅳ		○	130
グルーミング実習Ⅱ		○	113	動物飼育実習Ⅲ	○		131
動物飼育実習Ⅰ	○		114	動物飼育実習Ⅳ		○	132
動物飼育実習Ⅱ		○	115	動物美容総合実習Ⅱ	○		133
ペットトレーニング実習Ⅰ	○		116	検定対策Ⅲ	○		134
ペットトレーニング実習Ⅱ		○	117	就職実務Ⅲ	○		135
動物美容総合実習Ⅰ		○	118				
検定対策Ⅰ	○		119				
検定対策Ⅱ		○	120				
就職実務Ⅰ	○		121				
就職実務Ⅱ		○	122				
特別課外授業	○	○	123				

実務経験のある教員による授業科目一覧

動物看護学科

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁	時間
動物臨床検査学	小和田 友美	獣医師免許取得後、動物病院にて31年の実務経験。	19	30
動物関連法規	李代 俊枝	獣医師免許取得後、県庁職員（獣医公衆衛生関連業務）として36年の実務経験。	13	30
動物感染症学Ⅰ			15	30
動物感染症学Ⅱ			32	60
ペット関連産業概論			38	30
比較動物学			51	60
公衆衛生学			53	60
動物生活環境学			56	30
動物臨床検査学実習	安中 靖	獣医師免許取得後、動物病院にて25年の実務経験。	40	60
動物臨床検査学実習	金谷 興一	獣医師免許取得後、動物病院にて21年の実務経験。	40	60
動物病理学	松本 禎基	獣医師免許取得後、動物病院にて5年の実務経験。	31	30
動物外科看護学実習Ⅲ			59	30
動物薬理学			52	60
動物外科看護学Ⅰ	岩崎 美香	専門学校卒業後、動物病院にて12年の実務経験。	17	30
動物内科看護学実習Ⅰ			21	60
動物外科看護学実習Ⅰ			22	30
動物外科看護学Ⅱ			34	30
動物内科看護学実習Ⅱ			39	30
動物外科看護学実習Ⅱ			41	30
動物愛護・適正飼養実習			43	60
動物内科看護学Ⅲ			54	30
動物内科看護学実習Ⅲ			58	30
動物臨床看護学実習Ⅱ			60	30
動物介護学			65	30
動物行動学	吉田 卓史	大学を卒業後、動物園にて7年の実務経験。	12	30
動物内科看護学Ⅰ	小鮎 穂香	専門学校卒業後、動物病院で2年の実務経験。	16	30
適正飼養指導論			37	60
動物臨床看護学実習Ⅰ			42	30
動物医療コミュニケーション			50	30
動物内科看護学Ⅱ	田中 義朗	獣医師免許取得後、検査施設にて43年の実務経験。	33	30
動物臨床看護学各論Ⅰ			35	60
動物臨床看護学各論Ⅱ			55	60
しつけトレーニング実習Ⅰ	原田 文博	専門学校を卒業後、しつけトレーニング施設にて4年間の実務経験。	25	30
しつけトレーニング実習Ⅱ			46	30
愛玩動物学	木村 樹璃愛	専門学校を卒業後、ペットショップにて9年間の実務経験。	20	60
動物飼育管理実習Ⅱ			47	60
グルーミング実習Ⅱ	田中 里恵	動物病院で4年の実務経験。トリマーとしてサロン及びペットサロンにて4年の実務経験。	45	90
グルーミング実習Ⅲ			62	90
グルーミング実習Ⅱ	伊井 由莉香	専門学校を卒業後、専門学校講師を務める。その後、Dog Salon Hyggeを開業。現在もトリマーとして活躍。	45	90
グルーミング実習Ⅲ			62	90
グルーミング実習Ⅰ	赤坂 成美	ドッグサロンにて7年間の実務経験。	24	180
グルーミング実習Ⅰ	小木曾 佳美	専門学校を卒業後、ドッグサロンにて実務経験を積みドッグサロンWINを開業。現在もトリマーとして活躍。	24	180
グルーミング実習Ⅰ	原田 明里	専門学校を卒業後、ドッグサロン・動物病院・ペットショップにてトリマーとして6年間の実務経験。現在もトリマーとして活躍。	24	180
グルーミング実習Ⅱ			45	90
グルーミング実習Ⅲ			62	90
グルーミング実習Ⅰ	青木 恋雪	専門学校を卒業後、ドッグサロン・ペットショップにてトリマーとして9年間の実務経験。現在もトリマーとして活躍。	24	180
グルーミング実習Ⅱ			45	90
グルーミング実習Ⅲ			62	90

実務経験のある教員による授業科目一覧

動物飼育学科

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁	時間
校外飼育実習Ⅰ	連携先 スタッフ	各実習先で飼育員もしくはインストラクターとして勤務するスタッフ	78	240
校外飼育実習Ⅱ			98	240
動物飼育学	新井 さき	専門学校卒業後、動物園・乗馬クラブにて12年間の実務経験。	70	60
家畜飼育学			72	60
飼育総合演習			77	120
小動物飼育概論			88	60
飼育健康管理学			89	60
動物健康管理学			90	60
飼育総合演習Ⅱ			100	240
動物解剖生理学	辻代 俊枝	獣医師免許取得後、県庁職員（獣医公衆衛生関連業務）として36年の実務経験。	75	60
動物感染症学			86	30
愛玩動物飼養管理士学	木村 樹璃愛	専門学校を卒業後、ペットショップにて9年間の実務経験。	73	60
動物飼育実習			79	60
アクアリウム演習			93	30
動物飼育実習Ⅱ			99	120
自然環境保護	吉田 卓史	大学を卒業後、動物園にて7年の実務経験。	92	30
環境教育学			94	30
動物園学			95	60

実務経験のある教員による授業科目一覧

動物美容学科

科目名	担当教員	実務経験内容等	頁	時間
エキゾチックアニマル学	新井 さき	専門学校卒業後、動物園・乗馬クラブにて12年間の実務経験。	109	30
動物飼育実習Ⅰ	木村 樹璃愛	専門学校を卒業後、ペットショップにて9年間の実務経験。	114	30
動物飼育実習Ⅱ			115	30
動物飼育実習Ⅲ			131	30
動物飼育実習Ⅳ			132	30
ペットトレーニング実習Ⅰ	原田 文博	専門学校を卒業後、しつけトレーニング施設にて4年間の実務経験。	116	30
ペットトレーニング実習Ⅱ			117	30
ペットエステ・美容学Ⅰ	赤坂 成美	グルーミングスクール卒業後、ドッグサロンにて7年間の実務経験。	106	30
ペットエステ・美容学Ⅱ			107	30
グルーミング実習Ⅰ			112	240
グルーミング実習Ⅱ			113	180
ペット美容学Ⅲ			124	60
ペット美容学Ⅳ			125	60
ペットエステ学Ⅲ			126	60
ペットエステ学Ⅳ			127	60
グルーミング実習Ⅰ	小木曾 佳美	専門学校を卒業後、ドッグサロンにて実務経験を積みドッグサロンWINを開業。現在もトリマーとして活躍。	112	240
グルーミング実習Ⅱ			113	180
グルーミング実習Ⅲ			129	240
グルーミング実習Ⅳ			130	360
グルーミング実習Ⅰ	原田 明里	専門学校を卒業後、ドッグサロン・動物病院・ペットショップにてトリマーとして6年間の実務経験。現在もトリマーとして活躍。	112	240
グルーミング実習Ⅱ			113	180
グルーミング実習Ⅲ			129	240
グルーミング実習Ⅳ			130	360
グルーミング実習Ⅰ	青木 恋雪	専門学校を卒業後、ドッグサロン・ペットショップにてトリマーとして9年間の実務経験。現在もトリマーとして活躍。	112	240
グルーミング実習Ⅱ			113	180
グルーミング実習Ⅲ			129	240
グルーミング実習Ⅳ			130	360
グルーミング実習Ⅰ	伊井 由莉香	専門学校を卒業後、専門学校講師を務める。その後、Dog Salon Hyggeを開業。現在もトリマーとして活躍。	112	240
グルーミング実習Ⅱ			113	180
グルーミング実習Ⅲ			129	240
グルーミング実習Ⅳ			130	360

講 義 概 要

科目名	動物形態機能学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	120時間	年間取得単位数	4単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 里海	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物の生命維持のしくみを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の形態機能を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～4回目	生命のすがた	体を形づくる基本物質、細胞のしくみと働き、遺伝情報、各組織の働き、器官の成り立ちと維持
第5～8回目	血液と造血器①	血球成分と血漿成分、赤血球の構造と機能
第9～12回目	血液と造血器②	白血球の構造と機能、血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解
第13～16回目	血液循環とその調節①	循環器系の概要、心臓のしくみと働き、心電図
第17～20回目	血液循環とその調節②	血管のしくみと働き、血液循環
第21～24回目	生体の防御機構	生体を守る防御機構、自然免疫、獲得免疫
第25～28回目	脳と神経①	脳と各神経系の役割、興奮抑制シナプス
第29～32回目	脳と神経②	神経伝達物質、脳の構成要素、脳神経、脊髄と脊髄神経、自律神経系、行動の神経調節
第33～36回目	感覚と情報伝達①	各感覚系の働き(体性感覚、嗅覚、味覚)
第37～40回目	感覚と情報伝達②	各感覚系の働き(聴覚と平衡感覚、視覚)
第41～44回目	からだの支持と運動①	体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分、骨格、骨格筋
第45～48回目	外皮系と体温調節①	外皮、皮膚の付属器官、皮膚による体温調節
第49～52回目	呼吸とその調節	呼吸器の構造、呼吸
第53～56回目	内分泌とホルモン①	内分泌、各種ホルモン、内分泌系の構造と機能
第57～60回目	内分泌とホルモン②	視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、ランゲルハンス島、消化管ホルモンの機能
第61～64回目	消化吸収と栄養代謝	歯の分類と数、舌の形と働き、咽頭と嚥下、食道、胃や腸のしくみと働き、唾液腺、膵臓、肝臓
第65～68回目	尿の生成と体液調節	肝臓、尿路、体液、電解質バランス

科目名	動物行動学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の行動について学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物行動学の基本概念①	動物行動学の発展、行動学研究の4分野
第2回目	動物行動学の基本概念②	行動の進化と適応
第3回目	維持行動の意味と効果①	摂食行動、飲水行動
第4回目	維持行動の意味と効果②	排泄行動、身づくろい行動、護身行動
第5回目	社会行動①	群れの社会構造
第6回目	社会行動②	生殖行動
第7回目	社会行動③	コミュニケーション行動
第8回目	社会行動④	敵対行動と親和的行動
第9回目	行動発現のしくみ①	行動の動機づけと脳による行動の制御
第10回目	行動発現のしくみ②	行動の周期性
第11回目	行動の発達と学習①	行動の発達
第12回目	行動の発達と学習②	遺伝的要因と環境要因が行動発達に与える影響、馴化と感作
第13回目	行動の発達と学習③	古典的条件付けとオペラント条件付け
第14回目	問題行動と行動診療①	問題行動とは、問題行動診療とは
第15回目	問題行動と行動診療②	問題行動治療の実際の手順
第16回目	問題行動と行動診療③	問題行動診療で用いるその他の方法
第17回目	犬と猫における主な問題行動	攻撃行動

科目名	動物関連法規		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 義朗	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物関連法規を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護関連法規①	法の体系、獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり
第2回目	動物看護関連法規②	獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり
第3回目	動物看護関連法規③	愛玩動物看護師法の目的、定義
第4回目	動物看護関連法規④	獣医師法、獣医療法、狂犬病予防法
第5回目	動物看護関連法規⑤	と畜場法、食鳥検感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
第6回目	動物看護関連法規⑥	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
第7回目	動物看護関連法規⑦	麻薬及び向精神薬取締法、毒物及び劇物取締法
第8回目	動物看護関連法規⑧	まとめ
第9回目	動物愛護・適正飼養関連法規①	愛護、適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり、動物の愛護及び管理に関する法律
第10回目	動物愛護・適正飼養関連法規②	動物の愛護及び管理に関する法律
第11回目	動物愛護・適正飼養関連法規③	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律
第12回目	動物愛護・適正飼養関連法規④	身体障害者補助犬法
第13回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑤	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、化製場等に関する法律
第14回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑥	生物多様性の概要、外来生物
第15回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑦	ワシントン条約
第16回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑧	種の保存法、鳥獣保護法、ラムサール条約
第17回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑨	自然公園法や野生動植物保護、文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度

科目名	動物看護学概論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物看護学概論を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護の基本①	動物看護の目的、概念について理解する
第2回目	動物看護の基本②	獣医療と動物看護の歴史について理解する
第3回目	動物看護の基本③	獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する
第4回目	動物看護の基本④	動物にとっての健康、福祉、QOLを理解する
第5回目	動物看護の基本⑤	動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する
第6回目	動物看護の提供体制①	社会における動物病院の役割について理解する
第7回目	動物看護の提供体制②	一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する
第8回目	動物看護の提供体制③	インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、守秘義務について理解する
第9回目	動物看護の提供体制④	診療録(カルテ)と動物看護記録の作成、保存義務について理解する
第10回目	動物看護の提供体制⑤	職場における危険の防止、対処法について理解する
第11回目	動物看護の提供体制⑥	職場における労働安全衛生について理解する
第12回目	愛玩動物看護師とは①	愛玩動物看護師の職能団体について理解する
第13回目	愛玩動物看護師とは②	愛玩動物看護師の資格制度と資格認定機関について理解する
第14回目	愛玩動物看護師とは③	愛玩動物看護師の業務範囲について理解する
第15回目	愛玩動物看護師とは④	愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織、団体について理解する
第16回目	愛玩動物看護師とは⑤	国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物感染症学 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	杵代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防、治療法など感染症対策、感染防御にかかわる免疫学の基礎について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物感染について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	微生物の分類と特徴①	序論
第2回目	微生物の分類と特徴②	細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第3回目	微生物の分類と特徴③	細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第4回目	微生物の分類と特徴④	細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第5回目	微生物の分類と特徴⑤	ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性
第6回目	微生物の分類と特徴⑥	ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性
第7回目	微生物の分類と特徴⑦	ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性
第8回目	微生物の分類と特徴⑧	真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第9回目	微生物の分類と特徴⑨	真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性、プリオン
第10回目	微生物の分類と特徴⑩	まとめ
第11回目	微生物検査①	検体採取と取扱い、バイオセーフティ
第12回目	微生物検査②	無菌環境下での必要な手技、滅菌と消毒
第13回目	微生物検査③	微生物染色法、顕微鏡による観察法、ウイルス検査
第14回目	微生物検査④	微生物培養法、細菌検査
第15回目	微生物検査⑤	抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法、真菌、プリオン検査
第16回目	微生物検査⑥	薬剤感受性試験、PCR
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物内科看護学 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	健康の保持・増進	健康診断の内容と目的
第2回目	診療補助に必要な技術①	診察における愛玩動物看護師の役割
第3回目	診療補助に必要な技術②	診察室の準備と衛生管理
第4回目	診療補助に必要な技術③	診察室の準備と衛生管理
第5回目	診療補助に必要な技術④	動物種ごとの適切な接し方
第6回目	診療補助に必要な技術⑤	保定の基本的な原理、目的、方法
第7回目	診療補助に必要な技術⑥	保定の基本的な原理、目的、方法
第8回目	診療補助に必要な技術⑦	体重、体温、脈拍、呼吸、意識レベル、粘膜色
第9回目	診療補助に必要な技術⑧	股動脈圧、毛細血管再充満時間 (CRT)、浅在リンパ節
第10回目	検査・処置に必要な技術①	注射器の取扱い及び管理方法
第11回目	検査・処置に必要な技術②	注射器の取扱い及び管理方法
第12回目	検査・処置に必要な技術③	採血の目的と方法
第13回目	検査・処置に必要な技術④	採尿の目的と方法
第14回目	検査・処置に必要な技術⑤	穿刺と吸引
第15回目	検査・処置に必要な技術⑥	各種カテーテル挿入、酸素吸入
第16回目	検査・処置に必要な技術⑦	マイクロチップの挿入
第17回目	検査・処置に必要な技術⑧	学期末試験対策、復習

科目名	動物外科看護学 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護師の役割、準備①	手術チームにおける役割、手指の消毒法
第2回目	動物看護師の役割、準備②	ガウン、グローブの装着法
第3回目	術前準備①	術前検査、手術室の準備
第4回目	術前準備②	動物の術前準備、麻酔の準備、手術時のポジショニング
第5回目	術前準備③	術野の消毒法、ドレープの装着
第6回目	手術器具①	一般的な器具の名称と使用法 (メス、剪刀)
第7回目	手術器具②	一般的な器具の名称と使用法 (鉗子、持針器)
第8回目	手術器具③	一般的な器具の名称と使用法 (歯科器具、その他)
第9回目	麻酔・鎮静処置①	麻酔、鎮静処置時における役割、適応とリスク
第10回目	麻酔・鎮静処置②	処置前検査、麻酔、鎮静、吸入麻酔に関わる手技
第11回目	麻酔・鎮静処置③	麻酔看視項目、麻酔記録の作成法
第12回目	術中補助・術後管理①	術中・術後の役割と必要な動物看護援助
第13回目	術中補助・術後管理②	直接補助の業務
第14回目	縫合材料と縫合法①	縫合糸の分類、特徴、サイズ
第15回目	縫合材料と縫合法②	縫合糸の代替品、縫合針
第16回目	縫合材料と縫合法③	縫合法
第17回目	まとめ	前期復習、学期末試験対策

科目名	動物臨床看護学総論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学総論を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程の展開 ①	動物看護過程の目的や意義、方法について理解する、動物看護過程の各ステップについて理解する
第2回目	動物看護過程の展開 ②	アセスメントについて理解する
第3回目	動物看護過程の展開 ③	事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する
第4回目	動物看護過程の展開 ④	問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する
第5回目	動物看護過程の展開 ⑤	動物看護過程の実施と評価について理解する
第6回目	診療記録①	診療録(カルテ)の作成方法について理解する、動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について
第7回目	診療記録②	実際にカルテを作成する
第8回目	動物看護業務①	チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する
第9回目	動物看護業務②	ケアの標準化について理解する
第10回目	動物看護業務③	事故管理、防止システムについて理解する
第11回目	動物看護業務④	若齢動物看護の特徴について理解する
第12回目	動物看護業務⑤	高齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する
第13回目	動物看護業務⑥	家庭での継続看護を視野に入れた退院計画、指導について理解する
第14回目	ターミナルケア技術①	ターミナルケアの目的と意義について理解する
第15回目	ターミナルケア技術②	QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する
第16回目	ターミナルケア技術③	グリーフケアについて理解する、死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する
第17回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	動物臨床検査学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小和田 友美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定器の正しい扱い方について理解する。検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	臨床検査学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	臨床検査の基礎①	検体採取法 (血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など)
第2回目	臨床検査の基礎②	検体採取法 (血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など)
第3回目	血液検査①	血漿、血清の分離法、全血球計算法(CBC)
第4回目	血液検査②	血漿、血清の分離法、全血球計算法(CBC)
第5回目	血液検査③	血液塗抹の作製及び観察法
第6回目	血液検査④	血液塗抹の作製及び観察法
第7回目	血液検査⑤	ヘマトクリット管を用いた検査、凝固検査の目的と意義
第8回目	血液検査⑥	ヘマトクリット管を用いた検査、凝固検査の目的と意義
第9回目	血液検査⑦	血液化学検査の目的と意義
第10回目	血液検査⑧	血液化学検査の目的と意義
第11回目	血液検査⑨	血液ガス検査の目的と意義
第12回目	血液検査⑩	免疫学的検査の目的と意義
第13回目	尿検査①	尿の性状検査
第14回目	尿検査②	尿沈渣
第15回目	糞便検査①	虫卵、原虫の検出法
第16回目	糞便検査②	細菌の観察法
第17回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	愛玩動物学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	歴史と品種①	犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れについて理解する
第3～4回目	歴史と品種②	猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れについて理解する
第5～6回目	歴史と品種③	代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する
第7～8回目	歴史と品種④	血統と血統書について理解する
第9～10回目	使役動物①	使役動物 (犬、その他の動物) の歴史と福祉について理解する
第11～12回目	使役動物②	使役動物 (犬、その他の動物) の歴史と福祉について理解する
第13～14回目	使役動物③	補助犬 (盲導犬、聴導犬、介助犬) の歴史と現状について理解する
第15～16回目	使役動物④	その他の使役犬の種類と特徴及び現状について理解する
第17～18回目	動物の基本的な扱い①	動物を安全に散歩、運動、ふれあいさせることの意義について理解する
第19～20回目	動物の基本的な扱い②	動物を安全に散歩、運動、ふれあいさせることの意義について理解する
第21～22回目	動物の基本的な扱い③	基本的グルーミングの目的、方法について理解する
第23～24回目	動物の基本的な扱い④	適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する
第25～26回目	愛玩動物の飼養管理①	犬の適切な飼養管理方法について理解する
第27～28回目	愛玩動物の飼養管理②	犬の適切な飼養管理方法について理解する
第29～30回目	愛玩動物の飼養管理③	猫の適切な飼養管理方法について理解する
第31～32回目	愛玩動物の飼養管理④	愛玩鳥の適切な飼養管理方法について理解する
第33～34回目	愛玩動物の飼養管理⑤	代表的なエキゾチック動物について理解する

科目名	動物内科看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト第3版(エデュワードプレス)、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な動きを学ぶ実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	診察補助と身体検査①	犬の基本的な保定法
第3～4回目	診察補助と身体検査②	猫の基本的な保定法
第5～6回目	診察補助と身体検査③	身体検査とバイタルサイン評価(体温、心拍数)
第7～8回目	診察補助と身体検査④	身体検査とバイタルサイン評価(呼吸数、股動脈圧)
第9～10回目	輸液管理①	血管確保、事前準備
第11～12回目	輸液管理②	輸液ポンプの接続と輸液管理
第13～14回目	輸液管理③	シリンジポンプの接続、取り扱い
第15～16回目	輸液管理④	輸液量と輸液速度の計算
第17～18回目	輸血管理①	輸血とは、輸血用血液採取
第19～20回目	輸血管理②	全血の保存、輸血法、モニタリング
第21～22回目	注射器の取り扱い①	注射器の扱い方
第23～24回目	注射器の取り扱い②	薬剤の準備(アンプル)
第25～26回目	注射器の取り扱い③	薬剤の準備(バイアル)
第27～28回目	看護技術の実践と応用①	採血時の補助、薬剤の取り扱い
第29～30回目	看護技術の実践と応用②	投薬方法、外耳処置時の補助、エリザベスカラーの装着
第31～32回目	看護技術の実践と応用③	腹帯の装着、創傷管理
第33～34回目	看護技術の実践と応用④	包帯法、罨法、吸引法、まとめ

科目名	動物外科看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	手術関連業務①	リネン類等の種類と準備、ドレープのたたみ方
第2回目	手術関連業務②	手術衣のたたみ方
第3回目	手術関連業務③	ドレープを用いた手術器具の包み方
第4回目	手術器具①	手術器具の種類と目的、手術に使用する医療機器
第5回目	手術器具②	メス、メス刃の種類と交換方法
第6回目	手術器具③	剪刀・ピンセットの種類と使用目的、持ち方
第7回目	手術器具④	鉗子・持針器の種類と使用目的、持ち方
第8回目	手術器具⑤	縫合糸・縫合針の種類と特性
第9回目	手術器具⑥	滅菌に使用する器具、滅菌方法
第10回目	手術器具⑦	歯科処置の看護とケア、スケーリング準備
第11回目	手術器具⑧	スケーリングの手順
第12回目	術前術後の看護①	気管挿管の準備、挿管の手順・保定
第13回目	術前術後の看護②	術野の毛刈りと消毒、剃毛・洗浄・消毒の手順
第14回目	術前術後の看護③	手洗い、手術衣の着用
第15回目	術前術後の看護④	手袋の着用、滅菌・汚染の区別
第16回目	術前術後の看護④	術創の保護、術後のバイタルサインの評価
第17回目	術前術後の看護⑤	抜糸の補助、まとめ

科目名	動物看護総合実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	診察室での飼い主対応や処置室での臨床症例を見学することで、実践に役立つ知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不測の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物病院）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	60時間習得しなければならない。		

授業計画	
授 業 計 画 書	
<p>実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。 獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習準備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前訪問予約 ・ 持ち物・実習の内容等確認 2. 実習（補助実習） <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸注意事項確認 ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価） ・ 保定 ・ 避妊・去勢手術の流れ ・ 血液検査 ・ 尿検査 ・ 便検査 など 3. 実習後指導 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習日誌まとめ提出 ・ お礼状作成・送付 ・ 実習を通して得た課題の確認 	
<p>※国家資格愛玩動物看護師受験要件として3年間で180時間の実習が必須となる。</p>	

科目名	グルーミング実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	180時間	年間取得単位数	6単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂成美 小木曾佳美 原田明里 青木恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。 シャンプーコース(各部バリカン、部分カットを含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個体に応じたグルーミングが安全にできるよう身につける。また、全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義を学ぶ機会なども取り入れていく場合もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1～6回目	グルーミング基礎①	グルーミングの説明と道具について
第7～12回目	グルーミング基礎②	ウィッグでの道具の基礎練習
第13～18回目	グルーミング基礎③	ウィッグでの道具の基礎練習
第19～24回目	グルーミング基礎④	ウィッグでの道具の基礎練習
第25～30回目	グルーミング基礎⑤	ウィッグでの道具の基礎練習
第31～36回目	グルーミング①	実習犬でのお手入れ・ブラッシング実習
第37～42回目	グルーミング②	実習犬でのシャンプー実習
第43～48回目	グルーミング③	実習犬でのシャンプー実習
第49～54回目	グルーミング④	実習犬でのシャンプー実習
第55～60回目	グルーミング⑤	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第61～66回目	グルーミング⑥	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第67～72回目	グルーミング⑦	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第73～78回目	グルーミング⑧	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第79～84回目	グルーミング⑨	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習
第85～90回目	グルーミング⑩	実習犬でのシャンプー実習・部分カット実習

科目名	しつけトレーニング実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛／原田 文博	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	犬の正しい扱い方や基礎トレーニング方法を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	学習理論に基づいたトレーニング方法を理解して、犬の扱いやトレーニングができる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニング関連グッズ		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱うにふさわしい身だしなみ、動物を含めた安全確保や第三者に迷惑をかけないよう意識する。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	実習に関する説明	実習前の準備や実習後の犬のケアについて
第2回目	犬の行動と学習理論	犬の行動観察、犬の学習方法について
第3回目	社会化トレーニング①	社会化とは、社会化に必要なトレーニング
第4回目	社会化トレーニング②	社会化トレーニング実践
第5回目	基礎トレーニングの進め方	目標設定、トレーニング、課題設定のやり方
第6回目	基礎トレーニング①	アイコンタクト、座る、伏せる、立つなどの一連の行動を教える
第7回目	基礎トレーニング②	言葉と行動を関連付ける
第8回目	基礎トレーニング③	言葉で試す
第9回目	基礎トレーニング④	様々な環境下で実践
第10回目	散歩トレーニング①	散歩の目的、人の歩き方や注意点について
第11回目	散歩トレーニング②	目的別の散歩とトレーニング
第12回目	散歩トレーニング③	目的別の散歩とトレーニング
第13回目	問題行動の予防①	問題行動とは、予防と対処、修正の違いについて
第14回目	問題行動の予防②	問題行動予防に関するトレーニング
第15回目	問題行動の予防③	問題行動予防に関するトレーニング

科目名	検定対策 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	愛玩動物飼養管理士①	愛玩動物飼養管理士検定について、課題問題1～15
第2回目	愛玩動物飼養管理士②	課題問題16～30
第3回目	愛玩動物飼養管理士③	課題問題31～45
第4回目	愛玩動物飼養管理士④	課題問題46～60
第5回目	愛玩動物飼養管理士⑤	課題問題61～75
第6回目	愛玩動物飼養管理士⑥	課題問題76～90
第7回目	愛玩動物飼養管理士⑦	課題問題91～105
第8回目	愛玩動物飼養管理士⑧	課題問題106～120
第9回目	愛玩動物飼養管理士⑨	課題問題121～140
第10回目	愛玩動物飼養管理士⑩	総合演習
第11回目	愛玩動物飼養管理士⑪	総合演習
第12回目	愛玩動物飼養管理士⑫	総合演習
第13回目	社会人常識マナー①	社会人常識マナー検定とは、過去問題
第14回目	社会人常識マナー②	社会常識
第15回目	社会人常識マナー③	コミュニケーション
第16回目	社会人常識マナー④	ビジネスマナー
第17回目	社会人常識マナー⑤	総合演習

科目名	就職実務 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	就職活動に向けて自己理解や協調性、心構えなどを学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	未来ノート、履歴書、その他就職活動準備に必要な教材		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	未来ノート①	話し合いの意義
第2回目	未来ノート②	自己理解①「私の大切なもの探し」
第3回目	未来ノート③	自己理解②「私ってどんな人？」
第4回目	未来ノート④	自己理解③「自分を知る手がかり」
第5回目	未来ノート⑤	自己理解④「過去を振り返ろう」
第6回目	話し方①	発声、表情の練習
第7回目	話し方②	話題の作り方
第8回目	美文字練習①	ペン字（ひらがな、カタカナ、漢字）
第9回目	美文字練習②	ペン字（アルファベット、数字、文章）
第10回目	履歴書準備①	履歴書に記載する内容の整理
第11回目	履歴書準備②	履歴書に記載する内容の確認
第12回目	職場のマナー①	職場における様々なマナーを理解する
第13回目	職場のマナー②	来客対応を理解する
第14回目	身だしなみ①	就職活動における身だしなみを理解する
第15回目	身だしなみ②	就職活動における身だしなみを理解する

科目名	特別課外授業		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	—	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	学校行事、ボランティア活動を通じて個々の成長、経験に繋げ人間力の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	コミュニケーション能力向上・社会経験を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	各行事の出席状況・積極性により認定する。		
履修に当たっての留意点	各行事の目的を理解し、各々の成長に繋がるよう積極的に参加すること。		

授業計画	
1. 出席認定基準	1日の出席を6時間と換算し、10日分以上の出席で認定とする。
2. 主な行事一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習 ・学園祭（準備期間含む） ・国内研修旅行 ・飼育セミナー ・フィールドワーク ・スポーツフェスティバル ・その他、学校が認める行事及び各種ボランティア
3. 行事運営の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・目的の確認 ・事前準備 ・行事参加 ・振り返り（感想、次回への引継ぎ事項等）

科目名	動物繁殖学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の繁殖について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	生殖器の形態と機能①	生殖器(雄・雌)の基本構造について理解する
第2回目	生殖器の形態と機能②	主要な性ホルモンの名称、生産部位および標的器官について理解する
第3回目	生殖器の形態と機能③	雄、雌の繁殖整理について理解する
第4回目	性周期と交配①	生成熟と発情徴候について理解する
第5回目	性周期と交配②	排卵(自然排卵・交尾排卵)の仕組みについて理解する
第6回目	性周期と交配③	性周期と膣細胞スミアの関係について理解する
第7回目	性周期と交配④	交配適期の決定法について理解する
第8回目	妊娠と分娩①	着床・発生・妊娠・胎児の発育について理解する
第9回目	妊娠と分娩②	妊娠期間、偽妊娠、分娩等について理解する
第10回目	妊娠と分娩③	去勢・不妊手術について理解する
第11回目	妊娠と分娩④	人工授精について理解する
第12回目	新生子管理①	新生子のための飼養環境について理解する
第13回目	新生子管理②	初乳の意義と哺乳について理解する
第14回目	新生子管理③	新生子の発育過程について理解する
第15回目	遺伝子学概論①	遺伝のメカニズムについて理解する
第16回目	遺伝子学概論②	遺伝様式、遺伝疾患、発生異常について理解する
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物栄養学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	空代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	5大栄養素や代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の栄養についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	基礎栄養①	5大栄養素について理解する
第3～4回目	基礎栄養②	栄養要求の種差について理解する
第5～6回目	基礎栄養③	植生、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する
第7～8回目	基礎栄養④	健康維持における栄養の意味、栄養素の不足、過剰症について理解する
第9～10回目	栄養要求量①	エネルギー要求量の意味と計算方法について理解する
第11～12回目	栄養要求量②	栄養基準について理解する
第13～14回目	栄養要求量③	ライフステージごとの栄養管理について理解する
第15～16回目	フードと栄養指導①	ペットフードの種類、分類、ラベル表示を理解し飼い主に説明できる
第17～18回目	フードと栄養指導②	中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる
第19～20回目	フードと栄養指導③	栄養状態の評価法について理解する
第21～22回目	フードと栄養指導④	肥満の弊害と減量プログラムの作成方法について理解する
第23～24回目	疾病と栄養	疾病ごとの食事療法と療法食の特徴や効果を理解し、説明できる
第25～26回目	強制給餌と栄養法①	強制給餌の方法と注意点について理解する
第27～28回目	強制給餌と栄養法②	経管栄養法の種類と特徴、方法について理解する
第29～30回目	強制給餌と栄養法③	静脈栄養法の種類と特徴、方法について理解する
第31～32回目	強制給餌と栄養法④	チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する
第33～34回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	動物病理学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 禎基	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物病理を学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物病理学の基礎①	動物解剖と病理組織学的検査の目的、意義、病理組織標本作製法
第2回目	動物病理学の基礎②	病理組織学的検査の実施手順
第3回目	細胞や組織に生じる変化①	変性と物質沈着、壊死とアポトーシス
第4回目	細胞や組織に生じる変化②	細胞増殖のメカニズム、再生と化生、過形成と肥大
第5回目	循環障害①	充血とうっ血、出血の原因と病態
第6回目	循環障害②	血栓の成因
第7回目	循環障害③	虚血と梗塞
第8回目	循環障害④	浮腫と水腫
第9回目	循環障害⑤	ショックの原因と分類、病態、播種性血管内凝固(DIC)
第10回目	炎症①	炎症の定義と5大主徴、炎症の分類と原因と特徴
第11回目	炎症②	炎症に関与する細胞と化学伝達物質、炎症の経過と治癒
第12回目	腫瘍①	腫瘍の定義と分類
第13回目	腫瘍②	腫瘍の原因と発生機序、腫瘍と宿主の関係
第14回目	腫瘍③	腫瘍の転移と進行
第15回目	先天性異常①	遺伝子、染色体異常
第16回目	先天性異常②	発生異常と奇形
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物感染症学Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	杵代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の感染症についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	寄生虫の分類と特徴①	原虫の分類、形態、生活及び病原性
第3～4回目	寄生虫の分類と特徴②	線虫の分類、形態、生活及び病原性
第5～6回目	寄生虫の分類と特徴③	吸虫の分類、形態、生活及び病原性
第7～8回目	寄生虫の分類と特徴④	条虫の分類、形態、生活及び病原性
第9～10回目	寄生虫の分類と特徴⑤	衛生動物(ダニ、ノミなど)の分類、形態、生活環及び病原性
第11～12回目	寄生虫の分類と特徴⑥	寄生虫疾患の検査、診断法
第13～14回目	寄生虫の分類と特徴⑦	寄生虫疾患の検査、診断法、駆虫薬や駆虫剤の使用法
第15～16回目	動物感染症①	病原体の感染経路と伝播様式、感染症の成立要因
第17～18回目	動物感染症②	犬猫の感染症(ウイルス)
第19～20回目	動物感染症③	犬猫の感染症(細菌・真菌)
第21～22回目	動物感染症④	産業動物の感染症(ウイルス)
第23～24回目	動物感染症⑤	産業動物の感染症(細菌・真菌・プリオン)
第25～26回目	動物感染症⑥	実験動物・エキゾチックアニマルの感染症(ウイルス・細菌・真菌)
第27～28回目	動物感染症⑦	消毒、滅菌法、院内感染の予防対策
第29～30回目	免疫の基礎と応用①	自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫
第31～32回目	免疫の基礎と応用②	アレルギー(I～V型)と自己免疫疾患、ワクチンの原理と種類、接種プログラム
第33～34回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物内科看護学Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 義朗	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	投薬に関わる技術①	薬の処方、内服薬の使用法
第2回目	投薬に関わる技術②	薬剤の注射法
第3回目	投薬に関わる技術③	外用薬の使用法、薬浴の実施法
第4回目	投薬に関わる技術④	投薬前後の注意事項
第5回目	投薬に関わる技術⑤	投薬まとめ
第6回目	輸液に関わる技術①	輸液の適応とリスク、輸液計画
第7回目	輸液に関わる技術②	各輸液剤の特性や適応
第8回目	輸液に関わる技術③	輸液中のモニタリング
第9回目	輸液に関わる技術④	輸液まとめ
第10回目	輸血に関わる技術①	輸血の適応とリスク、輸血計画
第11回目	輸血に関わる技術②	クロスマッチ試験と血液型
第12回目	輸血に関わる技術③	各種輸血製剤の適応や特性
第13回目	輸血に関わる技術④	輸血に関わる手技
第14回目	輸血に関わる技術⑤	輸血による副反応
第15回目	輸血に関わる技術⑥	輸血にまとめ
第16回目	心電図と血圧に関わる技術①	心電図検査の目的と意義
第17回目	心電図と血圧に関わる技術①	心電図検査の実施方法

科目名	動物外科看護学Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	麻酔①	麻酔処置における愛護動物看護師の役割、麻酔リスクの評価(ASA分類など)
第2回目	麻酔②	麻酔前投与(鎮静など)、注射麻酔(局所麻酔を含む)の手技
第3回目	麻酔③	吸入麻酔の手技、導入時、覚醒後のリスクと対処法
第4回目	麻酔④	麻酔看視項目の監視方法、意義
第5回目	麻酔⑤	麻酔記録の作成法
第6回目	術中補助①	代表的な手術器具(メス、鉗子など)の名称と使用法
第7回目	術中補助②	代表的な手術器具(縫合針、縫合糸)の分類と使用法
第8回目	術中補助③	代表的な歯科器具の名称と使用法
第9回目	術中補助④	直接補助(手袋用下での補助)の内容
第10回目	術中補助⑤	間接補助(手術回りの補助)の内容
第11回目	術中補助⑥	麻酔覚醒後の動物のモニタリング
第12回目	術中補助⑦	疼痛管理の意義と方法
第13回目	術中補助⑧	術創管理と包帯法
第14回目	術中補助⑨	退院時の注意点と飼い主への説明事項
第15回目	動物理学療法①	動物理学療法の目的と意義
第16回目	動物理学療法②	代表的な理学療法の原理と手技
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床看護学各論 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 義朗	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学各論についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	徴候や疾患の理解と対処①	代表的な徴候や病態、疾患、徴候の評価と記録法について理解する
第3～4回目	徴候や疾患の理解と対処②	痛みの評価、徴候・疾患に基づいた援助について理解する
第5～6回目	代表的な疾患①	食欲不振・廃絶、元気消失、発熱、疼痛、消瘦
第7～8回目	代表的な疾患②	運動不振、咳、心雑音、不整脈など
第9～10回目	代表的な疾患③	消化器・栄養代謝性疾患
第11～12回目	泌尿器疾患①	急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症(PLN)、尿路感染症
第13～14回目	泌尿器疾患②	尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患(FLUTD)、尿道閉塞症、レプトスピラ症
第15～16回目	内分泌疾患①	甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病
第17～18回目	内分泌疾患②	副腎皮質亢進症、副腎皮質機能低下症、尿崩症
第19～20回目	生殖器疾患①	潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大
第21～22回目	生殖器疾患②	子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、膣脱、乳腺炎、犬ブルセラ症、乳腺腫瘍
第23～24回目	復習①	疾病への理解
第25～26回目	復習②	代表的な疾患の種類
第27～28回目	復習③	泌尿器疾患の対応について
第29～30回目	復習④	内分泌疾患について
第31～32回目	復習⑤	生殖器疾患について
第33～34回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	人と動物の関係学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	人と動物の関係について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	人間と動物関わり①	動物の飼養・利用の歴史について理解する
第2回目	人間と動物関わり②	動物の飼養・利用の歴史について理解する
第3回目	人間と動物関わり③	欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について理解する
第4回目	人間と動物関わり④	欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について理解する
第5回目	人間と動物関わり⑤	動物の飼養と利用の現状について理解する
第6回目	人間と動物関わり⑥	動物の飼養と利用の現状について理解する
第7回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり①	動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する
第8回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり②	動物虐待と対人暴力の連動性に関する基礎知識について理解する
第9回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり③	多頭飼育崩壊について理解する
第10回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり④	多頭飼育崩壊について理解する
第11回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり⑤	愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼育困難になる様々な事情について
第12回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育①	動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する
第13回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育②	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する
第14回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育③	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する
第15回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育④	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使う動物の公衆衛生学的、行動学的適正を理解する
第16回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育⑤	動物病院や愛玩動物看護師の関わりを理解する
第17回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育⑥	学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する

科目名	適正飼養指導論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	適正飼養指導論についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	愛玩動物の飼養①	愛玩動物の適正飼養の目的、概念、現状について理解する
第3～4回目	愛玩動物の飼養②	愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する
第5～6回目	愛玩動物の飼養③	愛玩動物の飼養のニーズや目的、飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する
第7～8回目	愛玩動物の飼養④	愛玩動物の飼養のニーズや目的、飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する
第9～10回目	適正飼養の推進①	適正飼養に関する支援の目的と活動について理解する
第11～12回目	適正飼養の推進②	動物取扱業者における適正飼養について理解する
第13～14回目	適正飼養の推進③	愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する
第15～16回目	適正飼養の推進④	問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法を理解する。
第17～18回目	災害危機管理と支援 ①	災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる
第19～20回目	災害危機管理と支援 ②	愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる
第21～22回目	災害危機管理と支援 ③	災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する
第23～24回目	動物愛護管理行政①	飼い主指導の基盤として、公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する
第25～26回目	動物愛護管理行政②	動物愛護週間の役割と実施状況について理解する
第27～28回目	動物愛護管理行政③	犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況について理解する
第29～30回目	動物愛護管理行政④	動物による事故の内容と報告状況について理解する
第31～32回目	動物愛護管理行政⑤	動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割について理解する
第33～34回目	動物愛護管理行政⑥	動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する

科目名	ペット関連産業概論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	空代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	ペット関連産業概論を学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ペット関連産業における職業倫理①	責任と社会的役割を理解する
第2回目	ペット関連産業における職業倫理②	商取引における関連法規の概要について理解する
第3回目	ペット関連産業における職業倫理③	動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明も意義や必要性、実施方法について理解する
第4回目	ペット関連産業における職業倫理④	動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明も意義や必要性、実施方法について理解する
第5回目	ペットの飼養実態と市場の規模①	ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要、市場規模について理解する
第6回目	ペットの飼養実態と市場の規模②	ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要、市場規模について理解する
第7回目	各ペット関連産業の現状と課題①	ペットフード、ペット商品、ペット関連サービスの現状と課題を理解する
第8回目	各ペット関連産業の現状と課題②	ペットフード、ペット商品、ペット関連サービスの現状と課題を理解する
第9回目	各ペット関連産業の現状と課題③	ペットフード、ペット商品、ペット関連サービスの現状と課題を理解する
第10回目	各ペット関連産業の現状と課題④	ペットフード、ペット商品、ペット関連サービスの現状と課題を理解する
第11回目	動物取扱業①	動物取扱業制度の概要について理解する
第12回目	動物取扱業②	動物取扱業制度の概要について理解する
第13回目	動物取扱業③	動物取扱業制度の概要について理解する
第14回目	動物取扱業④	動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係わる手法
第15回目	動物取扱業⑤	動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係わる手法
第16回目	動物取扱業⑥	動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係わる手法
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物内科看護学実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	生体検査①	心電図検査を実施し、結果を記録
第2回目	生体検査②	心電図検査を実施し、結果を記録
第3回目	生体検査③	X線撮影のための基本的な保定
第4回目	生体検査④	X線撮影のための基本的な保定
第5回目	生体検査⑤	放射線防護のための装備を正しく扱う
第6回目	生体検査⑥	超音波検査のための基本的な保定
第7回目	生体検査⑦	超音波検査のための基本的な保定
第8回目	生体検査⑧	神経学的検査の初見を記録
第9回目	生体検査⑨	神経学的検査の初見を記録
第10回目	生体検査⑩	神経学的検査の初見を記録
第11回目	生体検査⑪	眼科検査 (シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査などの補助)
第12回目	生体検査⑫	眼科検査 (シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査などの補助)
第13回目	生体検査⑬	皮膚検査(搔爬検査、スタンプ検査、被毛検査など)の補助
第14回目	生体検査⑭	皮膚検査(搔爬検査、スタンプ検査、被毛検査など)の補助
第15回目	生体検査⑮	外耳道検査の補助
第16回目	生体検査⑯	外耳道検査の補助
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復讐

科目名	動物臨床検査学実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	安中 靖・金谷 興一	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	臨床検査学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	検体検査①	血液塗抹標本を制作、染色
第3～4回目	検体検査②	血液塗抹標本を制作、染色
第5～6回目	検体検査③	血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比
第7～8回目	検体検査④	全血球計算及び血液化学検査
第9～10回目	検体検査⑤	全血球計算及び血液化学検査
第11～12回目	検体検査⑥	簡易血清学的検査
第13～14回目	検体検査⑦	尿検査を実施し、物理化学性状を記録
第15～16回目	検体検査⑧	尿沈渣を観察し、所見を記録
第17～18回目	検体検査⑨	糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出
第19～20回目	検体検査⑩	糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出
第21～22回目	生体検査①	細胞診の準備、補助
第23～24回目	生体検査②	細胞診の準備、補助
第25～26回目	生体検査③	心電図検査を実施し、結果を記録
第27～28回目	生体検査④	心電図検査を実施し、結果を記録
第29～30回目	生体検査⑤	X線検査の手技と注意点
第31～32回目	生体検査⑥	X線撮影のための基本的な保定、放射線防護のための装備
第33～34回目	生体検査⑦	超音波検査の手技と注意点

科目名	動物外科看護学実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	麻酔①	麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割、麻酔のリスク評価(ASA分類など)
第2回目	麻酔②	麻酔前投与(鎮静など)、注射麻酔(局所麻酔を含む)の手技
第3回目	麻酔③	吸入麻酔の手技、導入時、覚醒時のリスクと対処
第4回目	麻酔④	麻酔看視項目の監視方法、意義
第5回目	麻酔⑤	麻酔記録の作成法
第6回目	術中補助①	代表的な手術器具(メス、鉗子など)の名称と使用法
第7回目	術中補助②	代表的な縫合材(縫合針、縫合糸など)の分類と使用法
第8回目	術中補助③	犬の去勢手術
第9回目	術中補助④	犬の避妊手術
第10回目	術中補助⑤	猫の去勢手術
第11回目	術中補助⑥	猫の避妊手術
第12回目	術中補助⑦	直接補助(手袋着用下での補助)の内容
第13回目	術中補助⑧	間接補助(手術回りの補助)の内容
第14回目	術中補助⑨	麻酔覚醒後の動物モニタリング
第15回目	術中補助⑩	疼痛管理の意義と方法
第16回目	術中補助⑪	術創管理と包帯法
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程の実践①	事例を通して動物看護アプローチの個別性について考える
第2回目	動物看護過程の実践②	事例を通して動物看護アプローチの個別性について考える
第3回目	動物看護過程の実践③	事例を通して動物看護アプローチの個別性について考える
第4回目	動物看護過程の実践④	看護動物の生活環境(家族を含む)が健康に及ぼす影響について考える
第5回目	動物看護過程の実践⑤	看護動物の生活環境(家族を含む)が健康に及ぼす影響について考える
第6回目	動物看護過程の実践⑥	症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響について考える
第7回目	動物看護過程の実践⑦	症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響について考える
第8回目	動物看護過程の実践⑧	看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付ける
第9回目	動物看護過程の実践⑨	看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付ける
第10回目	動物看護過程の実践⑩	看護動物の援助の内容・方法を立案できる
第11回目	動物看護過程の実践⑪	看護動物の援助の内容・方法を立案できる
第12回目	動物看護過程の実践⑫	看護動物の援助の内容・方法を立案できる
第13回目	動物看護過程の実践⑬	動物看護計画の作成
第14回目	動物看護過程の実践⑭	動物看護計画の作成
第15回目	動物看護過程の実践⑮	動物看護計画の作成
第16回目	動物看護過程の実践⑯	動物看護記録を作成
第17回目	動物看護過程の実践⑰	動物看護記録を作成

科目名	動物愛護・適正飼養実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の適正飼育を学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	動物の基本的な扱い①	動物種に応じた安全なハンドリングができる
第3～4回目	動物の基本的な扱い②	動物種に応じた安全なハンドリングができる
第5～6回目	動物の基本的な扱い③	動物を安全に散歩・運動させることができる
第7～8回目	動物の基本的な扱い④	犬の散歩や運動、ふれあいのために適切な道具を選択することができる
第9～10回目	動物の基本的な扱い⑤	基本的なグルーミングを実施できる
第11～12回目	動物の基本的な扱い⑥	動物の飼育環境を適切に整備できる
第13～14回目	動物の基本的な扱い⑦	動物の飼育環境を適切に整備できる
第15～16回目	飼い主とのコミュニケーション①	犬や猫の品種に応じた特徴について指導できる
第17～18回目	飼い主とのコミュニケーション②	動物の適切な飼養方法について指導できる
第19～20回目	飼い主とのコミュニケーション③	動物の適切な飼養方法について指導できる
第21～22回目	飼い主とのコミュニケーション④	飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる
第23～24回目	飼い主とのコミュニケーション⑤	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる
第25～26回目	飼い主とのコミュニケーション⑥	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる
第27～28回目	飼い主とのコミュニケーション⑦	避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる
第29～30回目	動物愛護管理行政①	動物愛護管理センターの活動を理解する
第31～32回目	動物愛護管理行政②	動物取扱業へ指導すべき内容について理解する
第33～34回目	動物愛護管理行政③	動物取扱業における顧問等への対応について実践

科目名	動物看護総合実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	座学での学びと実際の業務内容の結びつきを確認する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不測の事態が生じた場合は、学校・学生・動物病院で協議する。評価は学校が定めた実習評価表に実習先より評価をいただく。		
履修に当たっての留意点	実習施設承諾書をいただいている動物病院において30時間習得しなければならない。		

授業計画	
<p>実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。</p> <p>獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。</p> <p>1. 実習準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前訪問予約 ・ 持ち物・実習の内容等確認 <p>2. 実習（実践実習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸注意事項確認 ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価） ・ 血液検査 ・ 尿検査 ・ 便検査 ・ レントゲン検査の保定 ・ エコー検査の保定 ・ 採血時の保定 ・ 入院室管理 など <p>3. 実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習日誌まとめ提出 ・ お礼状 ・ 実習を通して得た課題の確認 	

科目名	グルーミング実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法		企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵 小木曾 佳美 原田 明里 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	飼い主様の要望に応えられるようペットカットを学ぶ。実際に一般のご家庭のペットにも協力をしてもらい、オーダーからお返しをするまでの一連の流れを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個体に応じたグルーミングが安全にできるよう身につける。また、全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具一式		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～3回目	カット実習①	実習犬でのカット実習
第4～6回目	カット実習②	実習犬でのカット実習
第7～9回目	カット実習③	実習犬でのカット実習
第10～12回目	カット実習④	実習犬でのカット実習
第13～15回目	カット実習⑤	実習犬でのカット実習
第16～18回目	カット実習⑥	実習犬でのカット実習
第19～21回目	カット実習⑦	実習犬でのカット実習
第22～24回目	カット実習⑧	実習犬でのカット実習
第25～27回目	カット実習⑨	実習犬でのカット実習
第28～30回目	カット実習⑩	実習犬でのカット実習
第31～33回目	カット実習⑪	実習犬でのカット実習
第34～36回目	カット実習⑫	実習犬でのカット実習
第37～39回目	カット実習⑬	実習犬でのカット実習
第40～42回目	カット実習⑭	実習犬でのカット実習まとめ
第43～45回目	カット実習⑮	実習犬でのカット実習まとめ(全動専検定を含む)

科目名	しつけトレーニング実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛 原田 文博	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	犬の学習理論に基づいたトレーニングの実践。併せて他人に説明をするためのインストラクションテクニックを身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	しつけ方教室の開催		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	トレーニンググッズ及びPC (スマートフォン、タブレット可)		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ・Googleドキュメント等を活用した報告書の作成と共有を行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	トレーニング立案	トレーニングプラン構築とトレーニングの実践
第2回目	しつけトレーニング①	グループで考えたトレーニングの実践
第3回目	しつけトレーニング②	グループで考えたトレーニングの実践
第4回目	しつけトレーニング③	実践したトレーニング内容の説明資料を作成
第5回目	問題行動①	ファミリー犬の問題行動に関するトレーニング
第6回目	問題行動②	問題行動トレーニング
第7回目	問題行動③	問題行動トレーニング
第8回目	しつけ方教室準備①	しつけ方教室の開催について、教室テーマ設定
第9回目	しつけ方教室準備②	テーマに合ったしつけ方教室の練習
第10回目	しつけ方教室準備③	しつけ方教室リハーサル
第11回目	しつけ方教室準備④	リハーサルしたしつけ方教室の振り返りと改善
第12回目	しつけ方教室準備⑤	しつけ方教室最終調整
第13回目	しつけ方教室開催①	しつけ方教室実施と評価
第14回目	しつけ方教室開催②	しつけ方教室実施と評価
第15回目	まとめ	今まで行ったトレーニングのまとめ

科目名	動物飼育管理実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的なトレーニング技術を身につける。さらに手順や要領を考慮した飼育から問題解決能力を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	動物管理①	1年生に飼育実習を教える
第3～4回目	動物管理②	1年生に飼育実習を教える
第5～6回目	動物管理③	1年生に飼育実習を教える
第7～8回目	動物管理④	1年生に飼育実習を教える
第9～10回目	動物管理⑤	飼育に関する技術の実践と応用
第11～12回目	動物管理⑥	飼育に関する技術の実践と応用
第13～14回目	動物管理⑦	飼育に関する技術の実践と応用
第15～16回目	動物管理⑧	飼育に関する技術の実践と応用
第17～18回目	動物管理⑨	飼育に関する技術の実践と応用
第19～20回目	動物管理⑩	飼育に関する技術の実践と応用
第21～22回目	動物管理⑪	飼育に関する技術の実践と応用
第23～24回目	動物管理⑫	飼育に関する技術の実践と応用
第25～26回目	動物管理⑬	飼育に関する技術の実践と応用
第27～28回目	動物管理⑭	飼育に関する技術の実践と応用
第29～30回目	動物管理⑮	飼育に関する技術の実践と応用

科目名	検定対策Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	67時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1～3回目	ペットフード/ペットマナー①	ペットフードに関する基礎知識
第4～6回目	ペットフード/ペットマナー②	知識とマナーの向上
第7～9回目	ペットフード/ペットマナー③	ペットをめぐるトラブル
第10～12回目	ペットフード/ペットマナー④	総合演習
第13～15回目	ペット栄養管理士①	ペットフード総論
第16～18回目	ペット栄養管理士②	ペットフード総論
第19～21回目	ペット栄養管理士③	ペットフード基礎栄養学
第22～24回目	ペット栄養管理士④	ペットフード基礎栄養学
第25～27回目	ペット栄養管理士⑤	ペット臨床栄養学
第28～30回目	ペット栄養管理士⑥	ペット臨床栄養学
第31～33回目	ペット栄養管理士⑦	総合演習
第34～36回目	ペット栄養管理士⑧	総合演習
第37～39回目	ペット栄養管理士⑨	総合演習
第40～42回目	ペット栄養管理士⑩	総合演習
第43～45回目	ペット栄養管理士⑪	総合演習

科目名	就職実務Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	75時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	面接対策や企業選択の方法などを学び、就職活動をより意識して対策を実施する		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	適切な企業選択と社会人としてのマナーを身につけて就職活動に備える		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～3回目	面接対策①	面接時の注意点、面接指導
第4～6回目	面接対策②	面接時の注意点、面接指導
第7～9回目	電話対策①	電話のかけ方、話し方
第10～12回目	電話対策②	電話のかけ方、話し方
第13～15回目	美文字練習①	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第16～18回目	美文字練習②	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第19～21回目	傾聴術①	傾聴について理解
第22～24回目	傾聴術②	傾聴について理解
第25～27回目	傾聴術③	傾聴実践
第28～30回目	企業の選び方	企業の選定方法、企業研究について
第31～33回目	企業研究①	就職を視野に入れている企業について調べる
第34～36回目	企業研究②	就職活動のための書類を準備する
第37～39回目	話し方①	発声練習
第40～42回目	話し方②	話題の作り方
第43～45回目	心理学①	人の心のつかみ方
第46～48回目	心理学②	好かれる人になるには
第49～50回目	心理学③	深層心理

科目名	動物医療コミュニケーション		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	小鮎 穂香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物医療コミュニケーションを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	クライアント①	適性飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主ための手法を学ぶ
第2回目	クライアント②	適性飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主ための手法を学ぶ
第3回目	クライアント③	動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する
第4回目	クライアント④	動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する
第5回目	クライアント⑤	病気の適切な予防法について理解する
第6回目	クライアント⑥	病気の適切な予防法について理解する
第7回目	クライアント⑦	在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する
第8回目	クライアント⑧	在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する
第9回目	院内コミュニケーション①	飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する
第10回目	院内コミュニケーション②	飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する
第11回目	院内コミュニケーション③	獣医療面接のプロセスについて理解する
第12回目	院内コミュニケーション④	獣医療面接のプロセスについて理解する
第13回目	院内コミュニケーション⑤	チーム獣医療に関するコミュニケーション技能について理解する
第14回目	院内業務①	受付業務について理解する
第15回目	院内業務②	受付業務について理解する
第16回目	院内業務③	物品購入や管理について理解する
第17回目	院内業務④	ペット保険について理解する

科目名	比較動物学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	空代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	飼養動物や野生動物の概要を理解し、各動物の歴史や品種、飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	比較動物学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	動物の種類及び特性①	飼養動物及び特性について理解する
第3～4回目	動物の種類及び特性②	野生動物の種類及び特性について理解する
第5～6回目	動物の種類及び特性③	飼養動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置付け及び特徴について理解する
第7～8回目	産業動物①	家畜の歴史と品種、特徴について理解する
第9～10回目	産業動物②	各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する
第11～12回目	産業動物③	各家畜の性周期と繁殖生理について理解する
第13～14回目	産業動物④	各家畜の飼養施設の概要、食性と飼養法について理解する
第15～16回目	実験動物①	動物実験の目的、意義について理解する
第17～18回目	実験動物②	代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する
第19～20回目	実験動物③	遺伝的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する
第21～22回目	実験動物④	疾患モデル動物について理解する
第23～24回目	野生動物①	野生動物の分類と生物多様性について理解する
第25～26回目	野生動物②	鳥獣害の現状と保全の意義について理解する
第27～28回目	野生動物③	絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する
第29～30回目	展示動物①	展示動物の意義と動物園等の役割について理解する
第31～32回目	展示動物②	動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する
第33～34回目	展示動物③	動物園等の施設管理について理解する

科目名	動物薬理学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 禎基	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物薬理学についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	動物薬理学の基礎①	獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する
第3～4回目	動物薬理学の基礎②	薬理作用、発現機構、薬物動態と半減期、耐性について理解する
第5～6回目	動物薬理学の基礎③	薬物間相互作用、副作用と中毒について理解する
第7～8回目	薬物の取り扱い①	獣医師により投薬量計算、薬物の適切な管理方法について
第9～10回目	薬物の取り扱い②	各種投薬法を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる
第11～12回目	神経系の薬物について①	麻酔の種類や神経系に作用する薬について理解する
第13～14回目	神経系の薬物について②	鎮静剤と抗けいれん薬、問題行動の治療に用いられる薬について理解する
第15～16回目	呼吸器の薬物について	呼吸興奮薬、鎮咳薬、気管支拡張剤について理解する
第17～18回目	循環器・泌尿器の薬	降圧薬、強心薬、抗不整脈薬、利尿薬について理解する
第19～20回目	消化器に作用する薬①	制吐薬、制酸薬と胃粘膜保護薬、消化管運動調節機能薬について理解する
第21～22回目	消化器に作用する薬②	止瀉薬、瀉下薬、肝疾患の治療に用いられる薬物、酵素製剤について理解する
第23～24回目	代謝系の薬	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物について理解する
第25～26回目	血液・免疫系の薬①	抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬について理解する
第27～28回目	血液・免疫系の薬②	非ステロイド系抗炎症薬、免疫抑制薬について理解する
第29～30回目	感染症に用いられる薬①	抗菌薬、抗真菌薬について理解する
第31～32回目	感染症に用いられる薬②	駆虫薬、殺虫薬、消毒液について理解する
第33～34回目	悪性腫瘍の薬物	抗悪性腫瘍薬について理解する

科目名	公衆衛生学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	空代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	公衆衛生学についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	公衆衛生の概要①	公衆衛生の目的、公衆衛生行政について理解する
第3～4回目	公衆衛生の概要②	国民衛生の動向について理解する
第5～6回目	公衆衛生の概要③	One Healthと獣医療の関係について理解する
第7～8回目	疫学と疾病予防①	感染の成立について理解する
第9～10回目	疫学と疾病予防②	疫病、健康障害の発生要因について理解する
第11～12回目	疫学と疾病予防③	疫学調査法、予防疫学について理解する
第13～14回目	疫学と疾病予防④	人獣共通感染症とその対策について理解する
第15～16回目	疫学と疾病予防⑤	狂犬病予防について理解する
第17～18回目	環境衛生①	環境衛生について、歴史、背景、現在の問題について理解する
第19～20回目	環境衛生②	化学物質によってもたらされる健康障害について理解する
第21～22回目	環境衛生③	放射線による汚染と障害について理解する
第23～24回目	環境衛生④	衛生動物による汚染と障害と対策について理解する
第25～26回目	環境衛生⑤	動物の咬傷による人への健康障害について理解する
第27～28回目	環境衛生⑥	廃棄物の取扱いについて理解する
第29～30回目	食品衛生①	食品衛生と食中毒について理解する
第31～32回目	食品衛生②	動物性食品の衛生について理解する
第33～34回目	食品衛生③	食品衛生管理手法について理解する

科目名	動物内科看護学Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断等について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	心電図と血圧に関わる技術	血圧測定の方法と意義、注意点
第2回目	X線検査とCT/MRIに関わる技術①	X線検査の目的と意義、放射線防護、X線検査の実地方法と体位
第3回目	X線検査とCT/MRIに関わる技術②	フィルムの現像とデジタルX線撮影、CT及びMRI
第4回目	超音波検査に関わる技術①	超音波検査の目的と実地方法、保定方法
第5回目	超音波検査に関わる技術②	Bモード、Mモード、ドップラー法
第6回目	内視鏡検査に関わる技術①	内視鏡検査の目的と意義
第7回目	内視鏡検査に関わる技術②	内視鏡検査の実施方法、準備事項、スコープの洗浄・消毒方法
第8回目	神経学的検査に関わる技術①	姿勢反応と脊髄反射
第9回目	神経学的検査に関わる技術②	脳神経の検査法、神経学検査の評価記録法
第10回目	神経学的検査に関わる技術③	神経学的検査まとめ
第11回目	眼科検査に関わる技術①	シルマー検査、フルオレセイン試験の方法と意義
第12回目	眼科検査に関わる技術②	眼圧検査、眼底検査の方法と意義
第13回目	皮膚と耳の検査に関する技術①	皮膚事変の観察と記録法
第14回目	皮膚と耳の検査に関する技術②	皮膚搔爬検査、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検
第15回目	皮膚と耳の検査に関する技術③	ウッド灯検査と真菌培養法
第16回目	皮膚と耳の検査に関する技術④	外耳道の検査方法と意義
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床看護学各論Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 義朗	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	様々な疾患の病態生理を理解し、必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学各論についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	整形外科疾患	骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症、前十字靭帯断裂、股異形成、レッグペルテス病、骨肉腫
第3～4回目	皮膚疾患①	膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡
第5～6回目	皮膚疾患②	外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ
第7～8回目	神経疾患	脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群
第9～10回目	眼疾患①	結膜炎、角膜炎、乾性結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障
第11～12回目	眼疾患②	核硬化症、流涙症、第三眼瞼腺脱出(チェリーアイ)、異所性睫毛
第13～14回目	造血器。免疫介在性疾患①	免疫介在性溶血性貧血、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、パペシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎
第15～16回目	造血器。免疫介在性疾患②	猫白血病ウイルス(FeLV)感染症、猫免疫不全ウイルス(FIV)感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫
第17～18回目	緊急疾患①	交通事故、感電、熱傷、熱中症
第19～20回目	緊急疾患②	中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー
第21～22回目	担がん動物の看護①	がんの診断のための検査と治療の手順について理解する
第23～24回目	担がん動物の看護②	腫瘍随伴症候群について理解する
第25～26回目	担がん動物の看護③	腫瘍随伴症候群について理解する
第27～28回目	担がん動物の看護④	がんの診断のための検査と治療の手順について理解する
第29～30回目	担がん動物の看護⑤	がん治療を受けている動物の看護援助について理解する
第31～32回目	担がん動物の看護⑥	がん治療を受けている動物の看護援助について理解する
第33～34回目	担がん動物の看護⑦	担がん動物の治療と化学療法の副作用について理解する

科目名	動物生活環境学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	空代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ドッグランなどの各種施設での管理方法やペットの事故やケガ等のリスクを除去する為の方法や飼育マナーについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物生活環境に関する実習を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	飼養環境整備①	犬と猫の飼養環境整備に関わる法律、基準、整備
第2回目	飼養環境整備②	犬、猫たち、シニアペットとの暮らし方
第3回目	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン①	ペットツーリズムの現状と実施方法
第4回目	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン②	ペット同伴宿泊施設、ドッグランの環境整備と管理
第5回目	保護収容施設①	動物愛護管理センター等の役割
第6回目	保護収容施設②	動物愛護管理センター等の役割
第7回目	保護収容施設③	災害時シェルターの役割
第8回目	ペットへの教育・訓練施設①	ペットの飼育に関する課題、教育との関係性
第9回目	ペットへの教育・訓練施設②	飼い主教育における愛玩動物看護師の役割
第10回目	ペットへの教育・訓練施設③	社会化トレーニングの基礎、パピークラスの教育内容
第11回目	動物介在教育施設①	法的背景
第12回目	動物介在教育施設②	学校飼育動物等の施設の環境整備、施設管理
第13回目	飼育のマナー・事故等のリスクへの対応①	飼育マナーの必要性や目的
第14回目	飼育のマナー・事故等のリスクへの対応②	飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違い
第15回目	飼育のマナー・事故等のリスクへの対応③	地方自治体においての飼育マナーに関する各種条件
第16回目	飼育のマナー・事故等のリスクへの対応④	ペット保険の概要
第17回目	まとめ	課題問題、総まとめ

科目名	動物形態機能学実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物形態機能に関する実習を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な実習になるが、テーマによっては一斉講義の機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	運動器①	骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する
第2回目	運動器②	骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する
第3回目	運動器③	代表的な関節の名称と構造、機能について理解する
第4回目	運動器④	代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する
第5回目	内臓器官①	模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する
第6回目	内臓器官②	生殖器の雌雄差について理解する
第7回目	内臓器官③	生殖器の雌雄差について理解する
第8回目	顕微鏡の扱い①	顕微鏡各部位の名称、鏡検条件について理解する
第9回目	顕微鏡の扱い②	顕微鏡各部位の名称、鏡検条件について理解する
第10回目	顕微鏡の扱い③	顕微鏡の適切な操作法について習得する
第11回目	顕微鏡の扱い④	顕微鏡の適切な操作法について習得する
第12回目	顕微鏡の扱い⑤	顕微鏡の適切な操作法について習得する
第13回目	顕微鏡の扱い⑥	顕微鏡の適切な操作法について習得する
第14回目	組織像の観察①	主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する
第15回目	組織像の観察②	主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する
第16回目	組織像の観察③	組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する
第17回目	組織像の観察④	組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する

科目名	動物内科看護学実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	診察補助業務①	犬の保定、聴診器や体温計の扱い
第2回目	診察補助業務②	犬の保定、注射器の扱い
第3回目	診察補助業務③	犬の保定、注射器の扱い
第4回目	診察補助業務④	猫の保定、採血手順
第5回目	診察補助業務⑤	薬剤の取り扱い
第6回目	診察補助業務⑥	経口投与、注射の手順
第7回目	診察補助業務⑦	経口投与、注射の手順
第8回目	診察補助業務⑧	輸液ポンプ、シリンジポンプ
第9回目	診察補助業務⑨	輸液ポンプ、シリンジポンプ
第10回目	生体検査①	心電図検査を実施し、結果を記録
第11回目	生体検査②	X線撮影のための基本的な保定
第12回目	生体検査③	超音波検査のための基本的な保定
第13回目	生体検査④	神経学的検査の初見を記録
第14回目	生体検査⑤	眼科検査(シルマー検査、フルオレセイン試験、眼底検査など)の補助
第15回目	生体検査⑥	皮膚検査(搔爬検査、スタンプ検査、被毛検査など)の補助
第16回目	生体検査⑦	皮膚検査(搔爬検査、スタンプ検査、被毛検査など)の補助
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物外科看護学実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	松本 禎基	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	手術準備や術中、術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、繰り返しに実践する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	術前準備①	手術器具の準備、滅菌
第2回目	術前準備②	手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌
第3回目	術前準備③	手術に必要な機器、器械台の準備
第4回目	術前準備④	手術台への動物の固定、術野の消毒
第5回目	術前準備⑤	手洗い、手術衣や手袋の装着
第6回目	術中補助①	麻酔器の各部名称や使用法
第7回目	術中補助②	モニター機器 (心電図、血圧計など) の接続
第8回目	術中補助③	麻酔記録の作成
第9回目	術中補助④	直接補助 (器械の受渡しなど)
第10回目	術中補助⑤	間接補助 (无影灯、保温マットの操作など)
第11回目	術中補助⑥	歯科器具の取扱い、歯科処置の補助
第12回目	術後管理①	術後の創傷管理
第13回目	術後管理②	動物への包帯 (粘着性、自着性など) の装着
第14回目	術後管理③	抜糸補助
第15回目	救命救急①	必要な機材、薬剤の準備
第16回目	救命救急②	気管挿管補助、心肺蘇生
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床看護学実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程	動物看護過程の復習
第2回目	経過に基づく動物看護①	ライフステージ別の動物看護
第3回目	経過に基づく動物看護②	急性期の動物看護
第4回目	経過に基づく動物看護③	回復期の動物看護
第5回目	経過に基づく動物看護④	慢性期の動物看護
第6回目	経過に基づく動物看護⑤	終末期の動物看護
第7回目	経過に基づく動物看護⑥	終末期の動物看護(褥瘡、体位変換)
第8回目	輸液管理	輸液管理のための基礎知識、輸液に必要な器具器材
第9回目	疼痛管理①	疼痛とは、痛みの評価
第10回目	疼痛管理②	疼痛とは、痛みの評価
第11回目	栄養管理①	非経腸栄養法、経腸栄養法、流動食
第12回目	栄養管理②	非経腸栄養法、経腸栄養法、流動食
第13回目	ターミナルケアとは	ターミナルケアの目的、意義、事例を用いたターミナルケアの実践
第14回目	動物の看取り	入院動物、在宅療養動物の死、飼い主への対応
第15回目	エンゼルケア①	エンゼルケアの目的、意義、実践
第16回目	エンゼルケア②	エンゼルケアの目的、意義、実践
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物看護総合実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	今までの学習の成果を発揮し、内定をいただく。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	原則学校が定めた動物病院で実施する。実習中に不測の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物病院）で協議する。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価をいただく。		
履修に当たっての留意点	90時間習得しなければならない。		

授業計画	
<p>実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なお好みとご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。 獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習準備 <ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問予約 ・持ち物・実習の内容等確認 2. 実習（補助実習） <ul style="list-style-type: none"> ・諸注意事項確認 ・実習日誌を書く（感想・反省・自己評価） ・保定 ・避妊・去勢手術の流れ ・血液検査 ・尿検査 ・便検査 など 3. 実習後指導 <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌まとめ提出 ・お礼状作成・送付 ・実習を通して得た課題の確認 <p>※国家資格愛玩動物看護師受験要件として3年間で180時間の実習が必須となる。</p>	

科目名	グルーミング実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵 原田 明里 青木 恋雪 伊井 由莉香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	飼い主様の要望に応えられるようペットカットを学ぶ。実際に一般のご家庭のペットにも協力をしてもらい、オーダーからお返しをするまでの一連の流れを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個体に応じたグルーミングが安全にできるよう身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～3回目	カット実習①	実習犬カット実習（飼い主様へのアドバイス）
第4～6回目	カット実習②	実習犬カット実習（飼い主様へのアドバイス）
第7～9回目	カット実習③	実習犬カット実習（飼い主様へのアドバイス）
第10～12回目	カット実習④	実習犬カット実習（デザインカット）
第13～15回目	カット実習⑤	実習犬カット実習（デザインカット）
第16～18回目	カット実習⑥	実習犬カット実習（デザインカット）
第19～21回目	カット実習⑦	実習犬カット実習（デザインカット）
第22～24回目	カット実習⑧	実習犬カット実習（デザインカット）
第25～27回目	カット実習⑨	実習犬カット実習（デザインカット）
第28～30回目	カット実習⑩	実習犬カット実習（デザインカット）
第31～33回目	カット実習⑪	実習犬カット実習（デザインカット）
第34～36回目	カット実習⑫	実習犬カット実習（デザインカット）
第37～39回目	カット実習⑬	実習犬カット実習まとめ
第40～42回目	カット実習⑭	実習犬カット実習まとめ
第43～45回目	カット実習⑮	実習犬カット実習まとめ

科目名	動物飼育管理実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	出席率、飼育管理状況によって判断をする。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	実習時には、動物を扱うにふさわしい身だしなみ。 スケジュール管理を自身で行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	飼育実習①	飼育環境を整える
第3～4回目	飼育実習②	飼育環境を整える
第5～6回目	飼育実習③	飼育環境を整える
第7～8回目	飼育実習④	飼育環境を整える
第9～10回目	飼育実習⑤	飼育環境を整える
第11～12回目	飼育実習⑥	指導力を身につける
第13～14回目	飼育実習⑦	指導力を身につける
第15～16回目	飼育実習⑧	指導力を身につける
第17～18回目	飼育実習⑨	指導力を身につける
第19～20回目	飼育実習⑩	指導力を身につける
第21～22回目	飼育実習⑪	動物種別の健康管理
第23～24回目	飼育実習⑫	動物種別の健康管理
第25～26回目	飼育実習⑬	動物種別の健康管理
第27～28回目	飼育実習⑭	動物種別の健康管理
第29～30回目	飼育実習⑮	動物種別の健康管理

科目名	応用動物看護学実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物病院の繁忙期体験することにより、就職後をイメージし自分に足りない知識・技術を高める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	原則学校が定めた動物病院で実施する。実習中に不測の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物病院）で協議する。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価をいただく。		
履修に当たっての留意点	30時間習得しなければならない。		

授業計画	
<p>実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。 獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。</p> <p>1. 実習準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問予約 ・持ち物・実習の内容等確認 <p>2. 実習（実践実習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸注意事項確認 ・実習日誌を書く（感想・反省・自己評価） ・フィラリア検査 ・フィラリア予防薬の準備 ・狂犬病予防注射 <p>など ※原則、実習先施設の業務に準ずる内容とする。</p> <p>3. 実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌まとめ提出 ・お礼状作成・送付 ・実習を通して得た課題の確認 <p>※実習施設承諾書をいただいている施設における実習の場合は愛玩動物看護師受験要件の実習時間に加算してもよい。</p>	

科目名	動物介護学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	近年飼育されている犬猫の間にも高齢化が進み、動物にも介護が必要な時代になってきている。介護の知識・技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物介護の実践力を身につけ、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻 (エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	基礎知識①	高齢期とは
第2回目	基礎知識②	高齢期の運動①
第3回目	基礎知識③	高齢期の運動②
第4回目	基礎知識④	高齢期の食事①
第5回目	基礎知識⑤	高齢期の食事②
第6回目	場面に合わせた介護方法①	環境整備
第7回目	場面に合わせた介護方法②	歩行
第8回目	場面に合わせた介護方法③	歩行
第9回目	場面に合わせた介護方法④	排泄
第10回目	場面に合わせた介護方法⑤	食事①
第11回目	場面に合わせた介護方法⑥	食事②
第12回目	場面に合わせた介護方法⑦	入浴
第13回目	場面に合わせた介護方法⑧	高齢期に起こりやすい病気①
第14回目	場面に合わせた介護方法⑨	高齢期に起こりやすい病気②
第15回目	場面に合わせた介護方法⑩	高齢期に起こりやすい病気③
第16回目	場面に合わせた介護方法⑪	投薬
第17回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	国試対策		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・後期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	愛玩動物国家資格に向けて、弱点の克服、さらなる内容の理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個々の弱点に応じた対策を講じて、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書 1～10巻 (エデュワードプレス) 国家資格対策問題集		
成績評価の方法・基準	国試模擬試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になる。		

授業計画	テーマ	内容
第1～3回目	現状把握①	自身の弱点や得意分野を見つける
第4～6回目	現状把握②	自身の弱点や得意分野を見つける
第7～9回目	課題克服①	自らの弱点を克服するため、個々の課題を分析
第10～12回目	課題克服②	分析した課題を克服するための手法を実践
第13～15回目	全体講習①	学生の苦手とする分野を集中的に学ぶ
第16～18回目	全体講習②	学生の苦手とする分野を集中的に学ぶ
第19～21回目	全体講習③	学生の苦手とする分野を集中的に学ぶ
第22～24回目	過去問題①	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第25～27回目	過去問題②	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第28～30回目	過去問題③	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第31～33回目	過去問題④	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第34～36回目	過去問題⑤	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第37～39回目	過去問題⑥	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第40～42回目	試験対策①	1人ひとりに合った個別指導を実施
第43～45回目	試験対策①	1人ひとりに合った個別指導を実施
第46～48回目	試験対策①	1人ひとりに合った個別指導を実施
第49～51回目	試験対策①	1人ひとりに合った個別指導を実施

科目名	検定対策Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各試験の出題傾向を認識し、過去問題を繰り返し解くことで、各分野の理解度を上げる。また、独自のまとめノートを作成し、苦手分野の克服を図り、正答率の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト、過去問題集など		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	過去問題①	過去問題、解説
第3～4回目	過去問題②	過去問題、解説
第5～6回目	過去問題③	過去問題、解説
第7～8回目	過去問題④	過去問題、解説
第9～10回目	過去問題⑤	過去問題、解説
第11～12回目	過去問題⑥	過去問題、解説
第13～14回目	過去問題⑦	過去問題、解説
第15～16回目	過去問題⑧	過去問題、解説
第17～18回目	過去問題⑨	過去問題、解説
第19～20回目	過去問題⑩	過去問題、解説
第21～22回目	過去問題⑪	過去問題、解説
第23～24回目	過去問題⑫	過去問題、解説
第25～26回目	過去問題⑬	過去問題、解説
第27～28回目	過去問題⑭	過去問題、解説
第29～30回目	過去問題⑮	過去問題、解説
第31～32回目	過去問題⑯	過去問題、解説
第33～34回目	総まとめ	最終確認問題、解説

科目名	就職実務Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	就職対策を実践し、就職内定を円滑にいただけるように準備をする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職内定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	履歴書①	履歴書の作成
第2回目	履歴書②	履歴書の作成
第3回目	面接練習①	模擬面接
第4回目	面接練習②	模擬面接
第5回目	企業研究①	就職希望の企業を研究
第6回目	企業研究②	就職希望の企業を研究
第7回目	就職活動①	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第8回目	就職活動②	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第9回目	就職活動③	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第10回目	就職活動④	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第11回目	就職活動⑤	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第12回目	就職活動⑥	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第13回目	就職活動⑦	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第14回目	就職活動⑧	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第15回目	就職活動⑨	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第16回目	就職活動⑩	就職活動を実施（面接、内定届け等）
第17回目	就職活動⑪	就職活動を実施（面接、内定届け等）

科目名	パソコン実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	社会人としての必須能力である文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	パソコンに関する知識、技術を身につけ、業務に役立てる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	chromebook		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	パソコンの基礎①	PCのシャットダウン、タイピング、データ保存
第2回目	パソコンの基礎②	病院サイトのブログ作成
第3回目	パソコンの基礎③	ビジネスメールの送信
第4回目	文書作成ソフト①	タイピング、文書の作成①
第5回目	文書作成ソフト②	タイピング、文書の作成②
第6回目	文書作成ソフト③	チラシ作成①
第7回目	文書作成ソフト④	チラシ作成②
第8回目	表計算ソフト①	ワークシートの作成・編集
第9回目	表計算ソフト②	連続データ、合計、平均
第10回目	表計算ソフト③	グラフ作成①
第11回目	表計算ソフト④	グラフ作成②
第12回目	表計算ソフト⑤	報告書作成①
第13回目	表計算ソフト⑥	報告書作成②
第14回目	プレゼンテーションソフト①	プレゼン資料の作成①
第15回目	プレゼンテーションソフト②	プレゼン資料の作成②
第16回目	プレゼンテーションソフト③	プレゼン資料の作成③
第17回目	プレゼンテーションソフト④	発表

科目名	動物飼育学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	展示の目的や動物種ごとの様々な展示方法を学ぶ。また、その展示技法や非生体資料の展示についても理解する。更には、野生動物の生態や病気などについても学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種、目的ごとに異なる展示方法を学び、動物飼育管理士試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック動物園編(動物園水族館協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	展示①	総論、展示計画と実施、目的別展示、展示技法、哺乳類の展示、鳥類の展示、両生、爬虫類の展示
第3～4回目	展示②	昆虫類の展示、非生体資料の展示、展示と解説
第5～6回目	生態①	適切な飼育環境の実現、動物生態の理解
第7～8回目	生態②	進化に基づく諸現象の理解
第9～10回目	教育①	総論、教育内容(自然、環境、情操、生体)、教育対象、ガイド活動、学習会
第11～12回目	教育②	こども動物園、自然観察会、出張授業、移動動物園、教材貸し出し、動物相談、実習
第13～14回目	病気①	総論、病気の予防、寄生虫症、人と動物の共通感染症
第15～16回目	病気②	麻酔、吸入麻酔、哺乳類の病気、鳥類の病気、爬虫類の病気、両生類の病気
第17～18回目	繁殖①	総論、サル類の繁殖、肉食獣の繁殖、草食獣の繁殖、有袋類の繁殖
第19～20回目	繁殖②	鳥類の繁殖、爬虫類の繁殖、両生類の繁殖、昆虫の繁殖
第21～22回目	輸送①	総論、鳥類、爬虫類、両生類の捕獲、保定、哺乳類の捕獲・保定
第23～24回目	輸送②	輸送、両生類の繁殖、昆虫の繁殖
第25～26回目	環境エンリッチメント①	総論、展示とエンリッチメント、留意点、実施と評価
第27～28回目	環境エンリッチメント②	鳥類、有袋類、小型食肉目、大型食肉目、霊長類、有蹄類、齧歯類、その他の小型哺乳類
第29～30回目	総括	まとめ

科目名	海洋生物学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	海洋生物について学ぶ		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	様々な海洋生物の特性と人との関りを理解し、海洋生物学の知識を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック水族館編、配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	分類①	分類と分類学
第3～4回目	分類②	魚類、軟体動物、甲殻類の分類
第5～6回目	分類③	両生類、爬虫類の分類
第7～8回目	分類④	鳥類、哺乳類の分類
第9～10回目	生態①	魚類の生理、生態、繁殖
第11～12回目	生態②	魚類の生理、生態、繁殖
第13～14回目	生態③	魚類の生理、生態、繁殖
第15～16回目	生態④	海棲哺乳類の生理、生態、繁殖
第17～18回目	生態⑤	海棲哺乳類の生理、生態、繁殖
第19～20回目	生態⑥	海棲哺乳類の生理、生態、繁殖
第21～22回目	病気①	魚類、両生類、爬虫類の病気
第23～24回目	病気②	哺乳類、鳥類の病気
第25～26回目	病気③	飼育下での留意点
第27～28回目	総括①	まとめ
第29～30回目	総括②	まとめ

科目名	家畜飼育学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	産業動物の種類、品種、飼育管理方法および畜産業など社会との関りについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	様々な動物の特性と人との関りを理解し、産業について学ぶ。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	日本の家畜・家禽 (Gakken)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	牛①	歴史、特性、品種、解剖、生理
第3～4回目	牛②	飼養管理、牛に多い疾病
第5～6回目	馬①	馬の用途、解剖、生理
第7～8回目	馬②	馬に多い疾病
第9～10回目	豚①	歴史、特性、品種、解剖、生理
第11～12回目	豚②	飼養管理、豚に多い疾病
第13～14回目	羊①	歴史、特性、品種、解剖、生理
第15～16回目	羊②	飼養管理、羊に多い疾病
第17～18回目	山羊①	歴史、特性、品種、解剖、生理
第19～20回目	山羊②	飼養管理、山羊に多い疾病
第21～22回目	鶏①	歴史、特性、品種、解剖、生理
第23～24回目	鶏②	飼養管理、鶏に多い疾病
第25～26回目	畜産業	畜産業とは、日本の畜産、畜産業の地域による特徴、生産費の構成割合
第27～28回目	産業動物の福祉	産業動物福祉改善の歴史と定義、動物福祉の課題
第29～30回目	まとめ	総まとめ

科目名	愛玩動物飼養管理士学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペット（愛玩動物）の習性や正しい飼い方、動物関連法規（動物愛護管理法、ペットフード安全法など）、動物愛護精神などを、多くの人に広められる能力を身に付ける。		
到達目標 （目指す検定・資格を含む）	修得した知識の実践力を身に付ける。また、愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。		
使用教材・教具 （使用するテキスト等）	愛玩動物飼養管理士2級 第1巻・第2巻		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	愛玩動物飼養管理士 命倫理・福祉	生 愛玩動物飼養管理士の意義や責任、協会の歴史について、動物の福祉とその歴史、倫理の重要性
第3～4回目	動物の行動としつけ	犬猫の発達過程、コミュニケーション方法
第5～6回目	動物の行動としつけ②	犬猫の社会行動、しつけの理論
第7～8回目	動物愛護・適正飼養関連法規①	法律を学ぶ意義、動物の愛護、動物関連法令
第9～10回目	動物愛護・適正飼養関連法規②	動物関連法令、適正飼養関連法規
第11～12回目	動物愛護・適正飼養関連法規③	行政、自然環境法令
第13～14回目	愛玩動物学①	正しい関わり方と接し方、動物の健康維持、動物種別の身体的特徴
第15～16回目	愛玩動物学②	動物種別の身体的特徴、飼育管理と食性
第17～18回目	関係学・生活環境学①	動物種別の飼育管理と食性、動物との関係性と歴史、動物への思想
第19～20回目	関係学・生活環境学②	動物への思想、動物を使用した介在活動、ペットの歴史と現在、共生住宅
第21～22回目	関連産業	ペット業界の過去と現在、関連法令
第23～24回目	試験前まとめ	試験対策（スクーリング教材の見直しと課題報告問題）
第25～26回目	動物の行動としつけ③	学習理論
第27～28回目	総まとめ	総合演習
第29～30回目	総まとめ	総合演習

科目名	生態学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	野生動物や自然環境、生態系について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	環境の成り立ちや特徴、環境と野生動物の関りや生存のための戦略を知る。生物多様性や保全について学び理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	野生動物管理学、配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	動物自然環境学①	自然の成り立ち
第3～4回目	動物自然環境学②	世界の気候と植生
第5～6回目	動物自然環境学③	生物地理学①
第7～8回目	動物自然環境学④	生物地理学②
第9～10回目	生物進化と種分化	進化とは
第11～12回目	生物の生活資源	種間の様々な関係
第13～14回目	生物間相互作用	生態系の概念
第15～16回目	生態系	生態系の概念
第17～18回目	競争と共存	種間競争と種内競争、生態的地位など
第19～20回目	生活史の進化と多様性	生活史の進化
第21～22回目	ヒトと自然環境①	生態系サービス
第23～24回目	ヒトと自然環境②	環境保全
第25～26回目	総括①	まとめ
第27～28回目	総括②	まとめ
第29～30回目	総括③	まとめ

科目名	動物解剖生理学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	柰代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び生命体としての動物の細胞、組織。臓器レベルの各段階で理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の体の構造と機能を理解し、愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	伴侶動物解剖生理学		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	体の基本構造	細胞のしくみと働き、遺伝情報、組織、器官
第3～4回目	筋骨格系	体の位置、方向を示す用語、表面解剖学的区分、骨格、骨格筋
第5～6回目	消化器系	口腔内、咽頭と嚥下、食道、胃、腸のしくみと働き、唾液腺、膵臓、肝臓
第7～8回目	循環器系	心臓のしくみ、心筋の性質、心臓機能の調節、血管のしくみと働き、血液循環の調節
第9～10回目	呼吸器系	呼吸器の構造、呼吸
第11～12回目	泌尿器系	腎臓、尿路、体液、電解質バランス、酸、塩基平衡
第13～14回目	生殖器系	脳神経、脊髄と脊髄神経、自律神経系、行動の神経調節
第15～16回目	内分泌系	内分泌とは、ホルモンの種類、内分泌系の構造と機能
第17～18回目	神経系	脳と神経系の役割、静止膜電位と活動電位、興奮の伝導とシナプス伝達、シナプスの種類、神経伝達物質と
第19～20回目	感覚器系	感覚系とは、受容器と閾値、体性感覚、嗅覚、味覚、聴覚と平衡感覚、視覚
第21～22回目	外皮系	外皮、皮膚の付属器官、皮膚による体温調節
第23～24回目	血液	血球と血漿成分、赤血球、白血球の構造と機能、血液凝固
第25～26回目	免疫系	生体を守る防御機構、自然免疫、獲得免疫
第27～28回目	代謝	基礎代謝、栄養素の代謝、必要な栄養素
第29～30回目	まとめ	生殖とその分類、生殖器の基本的なしくみ、発情徴候と発情周期、遺伝と器官発生

科目名	公衆衛生・関連法規		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 義朗	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	公衆衛生、関連法規について学ぶ		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	公衆衛生、関連法規について学び、動物と関わる仕事に生かす。 愛玩動物飼養管理士の資格取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	応用動物看護学5(エデュワードプレス) 他		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ 機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	公衆衛生の概要①	公衆衛生の目的について理解する
第3～4回目	公衆衛生の概要②	公衆衛生行政について理解する
第5～6回目	公衆衛生の概要③	国民衛生の動向について理解する
第7～8回目	公衆衛生の概要④	獣医療の関係について理解する
第9～10回目	公衆衛生の概要⑤	感染の成立について理解する
第11～12回目	疫学と疾病予防①	疫学調査法について理解する
第13～14回目	疫学と疾病予防②	予防疫学について理解する
第15～16回目	疫学と疾病予防③	人獣共通感染症とその対策について理解する
第17～18回目	疫学と疾病予防④	狂犬病予防について理解する
第19～20回目	環境衛生①	環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する
第21～22回目	環境衛生②	化学物質によってもたらされる健康障害について理解する
第23～24回目	法の基礎知識	法学総論、動物関連法規について理解する
第25～26回目	動物愛護法規	動物愛護及び管理に関する法律について理解する
第27～28回目	野生動物について①	野生動物等に関する法律や条例について理解する
第29～30回目	野生動物について②	野生動物等に関する法律や条例について理解する

科目名	飼育総合演習		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	120時間	年間取得単位数	4単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	飼育管理室、フィールドワークなどを通して動物業界で求められる基礎技術から応用までを実践的に学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物業界で求められる専門的な知識、能力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～4回目	基礎①	飼育員として必要なスキル、心構えを学ぶ
第5～8回目	基礎②	掃除実践編
第9～12回目	調査	動物説明パネルをつくる
第13～16回目	発表	動物説明パネルの発表
第17～20回目	フィールドワーク①	学校周辺、利根川散策
第21～24回目	フィールドワーク②	学校周辺、利根川散策
第25～28回目	フィールドワーク③	学校周辺、利根川散策
第29～32回目	校外飼育実習まとめ①	チームに分かれて校外飼育実習の内容をまとめる
第33～36回目	校外飼育実習まとめ②	まとめたものを発表する
第37～40回目	施設見学①	ぐんま昆虫の森見学
第41～44回目	まとめ①	見学レポート作成
第45～48回目	施設見学②	群馬県立自然史博物館見学
第49～52回目	まとめ②	見学レポート作成
第53～56回目	調理実習	飼育員として必要な調理技術を学ぶ
第57～60回目	総評	1年間のまとめ

科目名	校外飼育実習 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	240時間	年間取得単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	連携先スタッフ	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	連携先企業にて、飼育動物の生態や飼養方法などを実践的に学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種ごとの適切な扱いや飼養方法を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	清掃用具一式		
成績評価の方法・基準	連携先企業の実習評価により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義も取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～4回目	実習について	実習にあたっての説明
第5～8回目	実習①	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第9～12回目	実習②	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第13～16回目	実習③	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第17～20回目	実習④	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第21～24回目	実習⑤	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第25～28回目	実習⑥	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第29～32回目	実習⑦	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第33～36回目	実習⑧	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第37～40回目	実習⑨	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第41～44回目	実習⑩	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第45～48回目	実習⑪	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第49～52回目	実習⑫	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第53～56回目	実習⑬	連携先企業にて実習（飼育管理、清掃業務等）
第57～60回目	総括	実習のまとめ

科目名	動物飼育実習		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	実際に動物の世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布プリント		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	実習時には、動物を扱うにふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	動物飼育実習について	飼育管理内容、ふさわしい身だしなみ、飼育管理への向き合い方
第3～4回目	管理動物について	飼育管理動物別の管理方法、注意点、扱い方
第5～6回目	犬猫の扱い方	犬猫の抱っこ方法、保定方法、バイタルチェック、遊び方
第7～8回目	成犬猫と仔犬猫の違い	ライフステージ別の違い、注意点
第9～10回目	犬の管理①	犬の散歩の意義、動物の行動理論、方法と対応
第11～12回目	犬の管理②	犬の正しい接し方、犬のボディランゲージ
第13～14回目	犬の管理③	犬のしつけの継続と方法
第15～16回目	魚の管理	魚の給餌方法、水槽掃除の方法と手順
第17～18回目	爬虫類の管理	爬虫類の給餌方法、掃除方法、扱い方
第19～20回目	衛生管理①	衛生的な管理が必要な理由、方法、実践
第21～22回目	衛生管理②	衛生的な管理が必要な理由、方法、実践
第23～24回目	危機管理①	危機管理の重要性と予防策や対処法
第25～26回目	危機管理②	危機管理の重要性と予防策や対処法
第27～28回目	実習まとめ①	お互いの動きを把握し、効率よく動く
第29～30回目	実習まとめ②	効率よく動くと同時に、臨機応変な対応を身に付ける

科目名	動物総合実習 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物企業で実際の業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場での実習を通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物飼育員として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物企業において実施する。なお実習中に不測の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物企業）で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	14日間で90時間習得しなければならない。		

授業計画	
<p>実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。</p> <p>動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。</p> <p>1. 実習準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前訪問予約 ・ 持ち物・実習の内容等確認 <p>2. 実習（実務型実習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸注意事項確認 ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価） ・ 清掃 ・ 給餌 ・ 生体管理 <p>3. 実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習日誌まとめ提出 ・ お礼状 	

科目名	検定対策 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	生物分類技能検定、飼育管理士検定の取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト、過去問題集など		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	生物分類技能検定①	分類、形態、生態に関する問題（哺乳類）
第3～4回目	生物分類技能検定②	分類、形態、生態に関する問題（爬虫類）
第5～6回目	生物分類技能検定③	分類、形態、生態に関する問題（昆虫）
第7～8回目	生物分類技能検定④	分類、形態、生態に関する問題（植物）
第9～10回目	生物分類技能検定⑤	分類、形態、生態に関する問題（植物）
第11～12回目	生物分類技能検定⑥	生物の一般問題
第13～14回目	生物分類技能検定⑦	生物の一般問題
第15～16回目	生物分類技能検定⑧	生物の一般問題
第17～18回目	飼育管理士検定①	問題演習
第19～20回目	飼育管理士検定②	問題演習
第21～22回目	飼育管理士検定③	問題演習
第23～24回目	飼育管理士検定④	問題演習
第25～26回目	飼育管理士検定⑤	問題演習
第27～28回目	飼育管理士検定⑥	まとめ
第29～30回目	飼育管理士検定⑦	まとめ

科目名	ビジネスマナー		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	「電話対応」、「コミュニケーション」、「ビジネスマナー」中心に社会で働くために求められる能力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	社会人としての一般常識の理解を深める。また、コミュニケーション能力の向上を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	電話対応技能検定 クイックマスター電話対応 (日本電信電話ユーザー協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	電話対応①	電話対応の基本
第3～4回目	電話対応②	電話の言葉
第5～6回目	コミュニケーション	ツールの基本
第7～8回目	マナー①	マナー基本、身だしなみ
第9～10回目	マナー②	命令、指示、報告、職場のマナー
第11～12回目	マナー③	ビジネスマナー、名刺交換
第13～14回目	マナー④	和食、洋食のマナー
第15～16回目	検定対策①	過去問題演習
第17～18回目	検定対策②	過去問題演習
第19～20回目	社会人常識①	漢字の読み、書き
第21～22回目	社会人常識②	カタカナ用語
第23～24回目	社会人常識③	政治や経済に関連する基礎用語
第25～26回目	社会人常識④	ビジネスにおける計算力
第27～28回目	社会人常識⑤	過去問題演習
第29～30回目	社会人常識⑥	過去問題演習

科目名	就職実務 I		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	就職活動に向けて自己理解や協調性、心構えなどを学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	未来ノート、履歴書、その他就職活動準備に必要な教材		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	未来ノート①	話し合いの意義
第2回目	未来ノート②	自己理解①「私の大切なもの探し」
第3回目	未来ノート③	自己理解②「私ってどんな人？」
第4回目	未来ノート④	自己理解③「自分を知る手がかり」
第5回目	未来ノート⑤	自己理解④「過去を振り返ろう」
第6回目	話し方①	発声、表情の練習
第7回目	話し方②	話題の作り方
第8回目	美文字練習①	ペン字（ひらがな、カタカナ、漢字）
第9回目	美文字練習②	ペン字（アルファベット、数字、文章）
第10回目	履歴書準備①	履歴書に記載する内容の整理
第11回目	履歴書準備②	履歴書に記載する内容の確認
第12回目	職場のマナー①	職場における様々なマナーを理解する
第13回目	職場のマナー②	来客対応を理解する
第14回目	身だしなみ①	就職活動における身だしなみを理解する
第15回目	身だしなみ②	就職活動における身だしなみを理解する

科目名	就職実務Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	企業研究①	企業研究の意味、目的、やり方
第2回目	企業研究②	就職を視野に入れている企業について調べる
第3回目	社会保障①	社会保障制度の種類や目的について理解する
第4回目	社会保障②	各社会保障制度の内容について理解する
第5回目	美文字練習③	履歴書の記載内容①
第6回目	美文字練習④	履歴書の記載内容②
第7回目	自己啓発①	自分に自信を持つための自己啓発学習
第8回目	自己啓発②	自分に自信を持つための自己啓発学習
第9回目	履歴書作成①	履歴書を書く
第10回目	履歴書作成②	履歴書を書く
第11回目	企業訪問①	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第12回目	企業訪問②	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第13回目	企業訪問③	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第14回目	電話応対	電話のかけ方、話し方のマナーを理解する
第15回目	御礼状の書き方	企業に向けた実習後の御礼状の書き方

科目名	特別課外授業		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年・通年
授業時数	—	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	岩崎 美香	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	学校行事、ボランティア活動を通じて個々の成長、経験に繋げ人間力の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	コミュニケーション能力向上・社会経験を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	各行事の出席状況・積極性により認定する。		
履修に当たっての留意点	各行事の目的を理解し、各々の成長に繋がるよう積極的に参加すること。		

授業計画	
1. 出席認定基準	1日の出席を6時間と換算し、10日分以上の出席で認定とする。
2. 主な行事一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習 ・学園祭（準備期間含む） ・国内研修旅行 ・飼育セミナー ・フィールドワーク ・スポーツフェスティバル ・その他、学校が認める行事及び各種ボランティア
3. 行事運営の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・目的の確認 ・事前準備 ・行事参加 ・振り返り（感想、次回への引継ぎ事項等）

科目名	動物感染症学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	空代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学び、動物飼育管理士の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	序論・ウイルス学総論・細菌学総論	感染症等の歴史、ウイルス、細菌の分類、大きさや構造、増殖、伝搬等
第2回目	真菌学総論・プリオン総論	真菌の分類、構造、増殖、伝搬等、異常プリオン
第3回目	感染防御	ワクチン、抗ウイルス薬と抗菌薬、動物感染症対策
第4回目	感染症学各論①	犬猫の感染症(ウイルス)
第5回目	感染症学各論②	犬猫の感染症(ウイルス)
第6回目	感染症学各論③	犬猫の感染症(細菌、真菌)
第7回目	感染症学各論④	産業動物の感染症(ウイルス)
第8回目	感染症学各論⑤	産業動物の感染症(細菌、真菌、プリオン)
第9回目	感染症学各論⑥	実験動物、エキゾチックアニマルの感染症(ウイルス、細菌、真菌)
第10回目	寄生虫学総論①	歴史、寄生虫・宿主との相互関係、生活環と生殖法、感染経路等
第11回目	寄生虫学総論① 原虫類	人獣共通感染症、寄生虫症の治療と看護、ケアおよび予防対策等
第12回目	蠕虫類①	蠕虫類総論、線虫類
第13回目	蠕虫類②	線虫類、吸虫類
第14回目	蠕虫類③・衛生動物①	糸虫類、衛生動物総論
第15回目	衛生動物②	ダニ類、ノミ類、シラミ、ハジラミ類等

科目名	動物基礎栄養学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、動物園での飼料について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を理解し、動物園にいる動物たちの飼料選択、種類ごとの給餌方法を現場で安全に実践できるようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック 動物園編 1		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	現場によって様々な給餌方法や、飼料の種類があることも伝える必要がある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	基礎栄養学	五大栄養素、六大栄養学について
第2回目	飼料	飼料管理、栄養管理、栄養がもたらす障害、評価方法
第3回目	犬の飼料	犬の飼料
第4回目	猫の飼料	猫の飼料
第5回目	サル類の飼料	サル類の飼料、注意点、栄養疾患
第6回目	肉食獣の飼料①	肉食獣の飼料、生き餌、栄養要求
第7回目	肉食獣の飼料②	栄養疾患、障害
第8回目	草食獣の飼料①	草食獣の消化器官の特徴、種類
第9回目	草食獣の飼料②	飼料の配合
第10回目	雑食獣の飼料①	雑食獣の食性、飼料、栄養管理、栄養疾患
第11回目	雑食獣の飼料②	栄養管理、栄養疾患
第12回目	鳥類の飼料	鳥類の給餌上の留意点
第13回目	爬虫類の飼料	カメ、ワニ、トカゲ、ヘビの飼料
第14回目	両生類の飼料	両生類の飼料の種類と入手方法、給餌方法
第15回目	昆虫の飼料	昆虫の食性、飼料、飼育の実際

科目名	小動物飼育概論		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	小動物の種類や飼育方法、病気などについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	小動物を適正に扱うことができる知識を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版、愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻、エキゾチックアニマルのケア		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	ウサギ	ウサギの特徴、分類、品種、飼育、飼育環境、雌雄判別、身体検査、繁殖、疾患
第3～4回目	フェレット	フェレットの特徴、分類、品種、飼育、身体検査、看護、疾患
第5～6回目	チンチラ	チンチラの特徴、品種、分類、身体検査、飼育、飼育環境、繁殖、疾患
第7～8回目	モルモット	モルモットの特徴、分類、品種、身体検査、飼育、飼育環境、繁殖、疾患
第9～10回目	ハムスター	ハムスターの分類、種類、特徴、飼育、生殖器、身体検査、疾患
第11～12回目	デグー、シマリス	デグー、シマリスの分類、生態、特徴、飼育、生殖器、身体検査、疾患
第13～14回目	プレーリードッグ、ジリス	プレーリードッグとジリスの分類、生態、特徴、飼育、生殖器、身体検査、疾患
第15～16回目	ハリネズミ	ハリネズミの分類、生態、特徴、飼育、生殖器、身体検査、疾患
第17～18回目	フクロモモンガ	モモンガの分類、生態、特徴、飼育、生殖器、身体検査、疾患
第19～20回目	トリ	トリの特徴、トリの種類、飼育方法、身体検査、雌雄判別、繁殖、疾患
第21～22回目	小型サル	小型サルの分類、種類、生態、特徴、飼育、身体検査、疾患
第23～24回目	ミニブタ	ミニブタの特徴、品種、飼育、飼育環境、身体検査、繁殖、疾患
第25～26回目	ボールパイソン	ボールパイソンの特徴、飼育、飼育環境、身体検査、雌雄判別、疾患
第27～28回目	グリーンイグアナ	グリーンイグアナの特徴、飼育、飼育環境、身体検査、雌雄判別、疾患、繁殖
第29～30回目	カメ	半水棲カメと陸生カメの特徴、品種、飼育管理、飼育環境、疾患

科目名	飼育健康管理学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	生態にあった飼育環境を学び、飼育管理を通して生体の健康と福祉について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	種別での生態を把握し、正しく飼育出来るようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新飼育ハンドブック 動物園編1・2・3・4		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	生体のより良い飼育環境と展示方法を動物の福祉に繋げる。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	適切な飼育環境の実現①	適切な飼育、展示、動物生態の理解
第3～4回目	適切な飼育環境の実現②	動物生態の理解、動物の福祉
第5～6回目	展示①	動物の構成からみた展示（展示技法、哺乳類、鳥類の展示）
第7～8回目	環境エンリッチメント①	環境総論、展示とエンリッチメント、留意点、繁殖
第9～10回目	環境エンリッチメント②	鳥類の環境エンリッチメント、繁殖
第11～12回目	環境エンリッチメント③	有袋類の環境エンリッチメント、繁殖
第13～14回目	環境エンリッチメント④	小型肉食目の環境エンリッチメント
第15～16回目	環境エンリッチメント⑤	大型食肉目の環境エンリッチメント、繁殖（肉食獣）
第17～18回目	環境エンリッチメント⑥	霊長類の環境エンリッチメント、繁殖（サル）
第19～20回目	環境エンリッチメント⑦	有蹄類の環境エンリッチメント、繁殖（草食獣）
第21～22回目	環境エンリッチメント⑧	齧歯類、その他の小型哺乳類
第23～24回目	展示②、その他の繁殖①	両生類、爬虫類の展示、繁殖
第25～26回目	展示③、その他の繁殖②	爬虫類の展示、繁殖
第27～28回目	展示④、その他の繁殖③	昆虫類の展示、繁殖、非生体資料の展示
第29～30回目	展示と解説	解説の重要性、解説手法

科目名	動物健康管理学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	飼育下でない自然な状態での動物の生態を知る。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	種別での生態を把握し、正しく飼育出来るようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新飼育ハンドブック 動物園編1・2・3・4 他		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	飼育されている状態と野生での状態の違いを知り、飼育に活かす。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	概論①	動物生態の理解
第3～4回目	概論②	動物の福祉
第5～6回目	生態①	哺乳類、鳥類の生育環境
第7～8回目	生態②	環境総論、繁殖
第9～10回目	生態③	鳥類の生態
第11～12回目	生態④	有袋類の生態
第13～14回目	生態⑤	小型肉食目の生態
第15～16回目	生態⑥	大型食肉目の生態
第17～18回目	生態⑦	霊長類の生態
第19～20回目	生態⑧	有蹄類の生態
第21～22回目	生態⑨	齧歯類、その他の小型哺乳類の生態
第23～24回目	生態⑩	両生類、爬虫類の生態
第25～26回目	生態⑪	爬虫類の生態
第27～28回目	生態⑫	昆虫類の生態
第29～30回目	まとめ	総括

科目名	植物療法		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	生物分類技能検定に向け対策をしつつ、植物の育成について詳しく学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	生物分類技能検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	生物分類技能検定試験問題集		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	試験対象の生物の範囲が広い為授業内であまり触れない動植物をメインで行っていく必要があるのに際して、他の科目とリンクしている生体に関しては授業内容を共有しながら進めていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	生物①	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生物
第2回目	生物②	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生物
第3回目	生物③	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生物
第4回目	生物④	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生物
第5回目	生物⑤	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生物
第6回目	生物⑥	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生物
第7回目	生物⑦	野生動物、昆虫、魚、無脊椎動物、その他の生物
第8回目	植物①	野菜、果物、その他の植物
第9回目	植物②	野菜、果物、その他の植物
第10回目	植物③	野菜、果物、その他の植物
第11回目	植物④	野菜、果物、その他の植物
第12回目	植物⑤	野菜、果物、その他の植物
第13回目	植物⑥	野菜、果物、その他の植物
第14回目	植物⑦	野菜、果物、その他の植物
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	自然環境保護		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	自然環境について学び保護活動や現状を知る。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	自然環境から生態系などを学び動物園や飼育に活かす。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料 等		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	自然環境学①	世界の現状の知る
第2回目	自然環境学②	地形、天候、自然環境の歴史、成り立ち
第3回目	自然環境学③	生態系、生物多様性
第4回目	自然環境学④	植物、植生について知る
第5回目	保全と保護①	深刻化する様々な環境問題
第6回目	保全と保護②	自然環境に関わる法制度
第7回目	保全と保護③	野生動植物に関わる法制度
第8回目	保全と保護④	種の保存法、レッドデータブックについて
第9回目	保全と保護⑤	保護活動や問題点、課題
第10回目	ヒトと環境①	環境保全について考える
第11回目	ヒトと環境②	ヒトと環境の相互作用の歴史
第12回目	ヒトと環境③	SDG'sや今後の課題について考える
第13回目	総括①	まとめ
第14回目	総括②	まとめ
第15回目	総括③	まとめ

科目名	アクアリウム演習		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	魚の種類別飼育管理方法や、魚の病気、飼育用品について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	種類別での飼育管理方法を理解し、適切な飼育方法を説明、実施できるようになる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	飼育管理室の魚飼育エリア		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	生体の相性なども考え行動する、観察力を必要とする。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	アクアリウム	アクアリウムとは
第2回目	種類	海水魚、淡水魚の違い
第3回目	飼育①	淡水魚の飼育方法
第4回目	飼育②	海水魚の飼育方法
第5回目	受け入れ①	水槽の立ち上げ方、準備
第6回目	受け入れ②	実践
第7回目	受け入れ③	実践②
第8回目	水草	水草の効果
第9回目	水草の水槽	水草の水槽づくり
第10回目	病気	魚の病気の対処
第11回目	混合①	魚の組み合わせ、相性
第12回目	混合②	混合水槽の計画
第13回目	水槽掃除	水槽掃除の仕方
第14回目	混合③	混合水槽の実践
第15回目	混合④	混合水槽の経過報告

科目名	環境教育学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	情操教育を通して動物園の役割を再認識し、運営できる知識を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	環境教育の意味、方法を理解し、実践する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック動物園編4・資料配布		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	環境教育①	環境教育とは
第2回目	環境教育②	自然教育、環境教育、情操教育、生体を使った教育
第3回目	環境教育③	教育対象、ガイド活動、学習会
第4回目	環境教育④	子ども動物園について
第5回目	環境教育⑤	様々な環境教育
第6回目	環境教育⑥	様々な環境教育
第7回目	環境教育⑦	様々な環境教育
第8回目	環境教育⑧	様々な環境教育
第9回目	環境教育⑨	様々な環境教育
第10回目	環境教育⑩	準備
第11回目	準備①	環境教育の計画
第12回目	準備②	環境教育の計画
第13回目	実践①	環境教育の実践
第14回目	実践②	環境教育の実践
第15回目	総括	まとめ

科目名	動物園学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	展示の目的や動物種ごとの分類、生理、生態などを学ぶ。また、その展示技法や非生体資料の展示についても理解する。更には、動物福祉に係る知識習得を図る。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種、目的ごとに異なる知識を学び、動物園業界で即戦力となれる知識を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック動物園編(動物園水族館協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	概論①	動物園の機能、動物園水族館協会について
第3～4回目	概論②	動物園に関する法令
第5～6回目	展示①	展示計画と実施
第7～8回目	展示②	展示技法
第9～10回目	展示③	展示と解説
第11～12回目	生理①	哺乳類、鳥類の生理
第13～14回目	生理②	哺乳類、鳥類の生理
第15～16回目	生理③	両生類、爬虫類の生理
第17～18回目	生理④	両生類、爬虫類の生理
第19～20回目	トレーニング①	動物園におけるトレーニング、ハズバンドリートレーニング
第21～22回目	トレーニング②	動物園におけるトレーニング、ハズバンドリートレーニング
第23～24回目	トレーニング③	動物園におけるトレーニング、ハズバンドリートレーニング
第25～26回目	保存	総論、遺伝的管理
第27～28回目	病気	共通感染症、動物対策
第29～30回目	総括	まとめ

科目名	水族館学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	水族館の機能、展示の目的を学ぶ。また、その展示技法やトレーニング、非生体資料の展示についても理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種・目的ごとに異なる知識を学び、水族業界で即戦力となれる知識を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	新・飼育ハンドブック水族館編(動物園水族館協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	概論①	動物園、水族館とは
第3～4回目	概論②	全国の水族館調査
第5～6回目	展示①	総論、展示技法
第7～8回目	展示②	海生哺乳類の展示
第9～10回目	展示③	海生鳥類、爬虫類の展示
第11～12回目	展示④	水族館デザイン論
第13～14回目	トレーニング①	総論、基礎
第15～16回目	トレーニング②	ハズバンダリートレーニングについて
第17～18回目	トレーニング③	動物との関係
第19～20回目	教育	水族館における教育
第21～22回目	研究	水族館における研究
第23～24回目	危機管理	総論、防災、事故について
第25～26回目	総括①	まとめ
第27～28回目	総括②	まとめ
第29～30回目	総括③	まとめ

科目名	畜産学		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	空代 俊枝	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	家畜飼育学を基礎に、復習をしつつ畜産業について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	畜産について正しく学び、畜産業の取り組みについても学ぶ。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布資料		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	畜産業	畜産の役割
第3～4回目	飼料①	飼料の生産と利用
第5～6回目	飼料②	飼料の生産と利用
第7～8回目	家畜の生理、生態、飼育環境①	家畜の生理、生態
第9～10回目	家畜の生理、生態、飼育環境②	家畜の繁殖
第11～12回目	家畜飼育の実際①	養鶏
第13～14回目	家畜飼育の実際②	養鶏
第15～16回目	家畜飼育の実際③	養豚
第17～18回目	家畜飼育の実際④	養豚
第19～20回目	家畜飼育の実際⑤	酪農
第21～22回目	家畜飼育の実際⑥	酪農
第23～24回目	家畜飼育の実際⑦	ウマ、ヤギ、メンヨウなど
第25～26回目	畜産経営と情報利用①	畜産における情報
第27～28回目	畜産経営と情報利用②	生産管理での利用
第29～30回目	まとめ	まとめ

科目名	校外飼育実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	240時間	年間取得単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	○
担当教員	連携先企業	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	群馬サファリパークおよび乗馬クラブ高崎などの動物関連施設にて、飼育動物の生態や飼養方法などを実践的に学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物種ごとの適切な扱いや飼養方法を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	連携先企業の実習評価により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、実習内容によっては講義も取り入れていくこともある。		

授業計画	テーマ	内容
第1～8回目	施設実習①	動物関連施設における動物の飼養管理
第9～16回目	施設実習②	動物関連施設における動物の飼養管理
第17～24回目	施設実習③	動物関連施設における動物の飼養管理
第25～32回目	施設実習④	動物関連施設における動物の飼養管理
第33～40回目	施設実習⑤	動物関連施設における動物の飼養管理
第41～48回目	施設実習⑥	動物関連施設における動物の飼養管理
第49～56回目	施設実習⑦	動物関連施設における動物の飼養管理
第56～64回目	施設実習⑧	動物関連施設における動物の飼養管理
第65～72回目	施設実習⑨	動物関連施設における動物の飼養管理
第73～80回目	施設実習⑩	動物関連施設における動物の飼養管理
第81～88回目	施設実習⑪	動物関連施設における動物の飼養管理
第89～96回目	施設実習⑫	動物関連施設における動物の飼養管理
第97～104回目	施設実習⑬	動物関連施設における動物の飼養管理
第105～112回目	施設実習⑭	動物関連施設における動物の飼養管理
第113～120回目	施設実習⑮	動物関連施設における動物の飼養管理

科目名	動物飼育実習Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	120時間	年間取得単位数	4単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果または実技により判断する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～4回目	飼育管理①	飼育管理について
第5～8回目	飼育管理②	飼育管理室について
第9～12回目	飼育管理③	飼育管理方法について
第13～16回目	飼育管理④	飼育で気になったこと
第17～20回目	飼育管理⑤	飼育で気になったこと
第21～24回目	飼育管理⑥	飼育で気になったこと
第25～28回目	飼育管理⑦	改善後の経過報告
第29～32回目	飼育管理⑧	改善後の経過報告
第33～36回目	飼育管理⑨	飼育の効率化
第37～40回目	飼育管理⑩	飼育の効率化
第41～44回目	飼育管理⑪	飼育の効率化
第45～48回目	飼育管理⑫	飼育の効率化
第49～52回目	飼育管理⑬	飼育の効率化
第53～56回目	飼育管理⑭	飼育の効率化
第57～60回目	飼育管理⑮	飼育の効率化

科目名	飼育総合演習Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	240時間	年間取得単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	対象の生態を学び、展示方法・説明パネルやエンリッチメントを考慮した飼育物の作成。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物業界で求められる専門的な知識、能力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び提出物の作品で考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	実習に適した動きやすい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～8回目	展示パネル作成①	動物の説明パネルの作成、生態説明
第9～16回目	展示パネル作成②	動物の説明パネルの作成、生態説明
第17～24回目	動物業界調査	全国の動物園、水族館の施設調査
第25～32回目	飼育室作成①	エンリッチメントを意識した新たな展示場の制作
第33～40回目	飼育室作成②	エンリッチメントを意識した新たな展示場の制作
第41～48回目	飼育室作成③	エンリッチメントを意識した新たな展示場の制作
第49～56回目	飼育室作成④	エンリッチメントを意識した新たな展示場の制作
第56～64回目	飼育室作成⑤	エンリッチメントを意識した新たな展示場の制作
第65～72回目	ロープワーク①	動物業界で求められるロープ技術の習得
第73～80回目	ロープワーク②	動物業界で求められるロープ技術の習得
第81～88回目	模擬卵作り①	鶏の卵を使用した卵の標本作成
第89～96回目	模擬卵作り②	鶏の卵を使用した卵の標本作成
第97～104回目	パンフレット作り①	パソコンを使用した動物パンフレットの作成
第105～112回目	パンフレット作り②	パソコンを使用した動物パンフレットの作成
第113～120回目	まとめ	過去の制作物の発表、まとめ

科目名	動物総合実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	動物企業で業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、様々な職場でのインターンシップを通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物飼育員として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不測の事態が生じた場合は、学校・学生・動物病院で協議する。評価は学校が定めた実習評価表に実習先より評価をいただく。		
履修に当たっての留意点	90時間習得しなければならない。		

授業計画
<p>実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。</p> <p>動物関連企業の現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。</p> <p>1. 実習準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前訪問予約 ・ 持ち物・実習の内容等確認 <p>2. 実習（実務型実習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸注意事項確認 ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価） ・ 清掃 ・ 給餌 ・ 生体管理 など <p>3. 実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習日誌まとめ提出 ・ お礼状 ・ 実習を通して得た課題の確認

科目名	検定対策		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	愛玩動物飼養管理士1級などの検定合格を目指し、課題問題を中心に理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物飼養管理士、生物分類技能検定、潜水土など		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト、問題集など		
成績評価の方法・基準	検定合格および学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉演習になるが、テーマによっては講義も入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	愛玩動物飼養管理士対策	課題問題、解説
第2回目	愛玩動物飼養管理士対策	課題問題、解説
第3回目	愛玩動物飼養管理士対策	課題問題、解説
第4回目	愛玩動物飼養管理士対策	課題問題、解説
第5回目	愛玩動物飼養管理士対策	課題問題、解説
第6回目	愛玩動物飼養管理士対策	課題問題、解説
第7回目	愛玩動物飼養管理士対策	課題問題、解説
第8回目	愛玩動物飼養管理士対策	課題問題、解説
第9回目	生物分類技能検定対策	課題問題、解説
第10回目	生物分類技能検定対策	課題問題、解説
第11回目	生物分類技能検定対策	課題問題、解説
第12回目	生物分類技能検定対策	課題問題、解説
第13回目	生物分類技能検定対策	課題問題、解説
第14回目	潜水土対策	課題問題、解説
第15回目	潜水土対策	課題問題、解説

科目名	就職実務Ⅱ		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	面接対策や企業選択の方法などを学び、就職活動をより意識して対策を実施する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	適切な企業選択と社会人としてのマナーを身につけて就職活動に備える。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度および出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	面接対策①	面接時の注意点、面接指導
第3～4回目	面接対策②	面接時の注意点、面接指導
第5～6回目	電話対策①	電話のかけ方、話し方
第7～8回目	電話対策②	電話のかけ方、話し方
第9～10回目	美文字練習①	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第11～12回目	美文字練習②	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第13～14回目	傾聴術	傾聴について理解
第15～16回目	傾聴術②	傾聴実践
第17～18回目	話し方①	発声練習
第19～20回目	話し方②	話題の作り方
第21～22回目	心理学①	人の心のつかみ方
第23～24回目	心理学②	好かれる人になるには
第25～26回目	心理学③	深層心理
第27～28回目	企業の選び方	企業の選定方法、企業研究について
第29～30回目	企業研究	就職を視野に入れている企業について調べる

科目名	SNSリテラシー		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	ネット社会においてSNSでのトラブル事例や、個人情報の取り扱いの重要性を学び今後にかけるようにする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	ネットでのトラブル事例をもとに、ネット上での危機管理能力を上げる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	ネットの流行は移り変わりが早いいため、その時代に流行っているものや、トラブル事例を取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ネット社会	ネット社会のメリット、デメリット
第2回目	個人情報	個人情報の取り扱い方
第3回目	SNSとは	SNSの正しい使い方
第4回目	ネットのトラブル①	ケーススタディ
第5回目	ネットのトラブル②	ケーススタディ
第6回目	ネットのトラブル③	ケーススタディ
第7回目	ネットのトラブル④	ケーススタディ
第8回目	ネットのトラブル⑤	ケーススタディ
第9回目	ネットのトラブル⑥	ケーススタディ
第10回目	ネットのトラブル⑦	ケーススタディ
第11回目	ネットのトラブル⑧	ケーススタディ
第12回目	ネットのトラブル⑨	ケーススタディ
第13回目	ネットのトラブル⑩	ケーススタディ
第14回目	ネットのトラブル⑪	ケーススタディ
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	スポーツトレーニング実践		
学科名	動物飼育学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・通年
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	腹筋、背筋などの筋力トレーニングから、ランなどの有酸素運動で持久力を上げる。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	大型動物を扱うための筋力・体力の向上。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末テスト（実技）の評価により判定する。		
履修に当たっての留意点	個人個人の体力差を考慮し実習に取り組む。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	体力、筋力向上①	テーマに応じた実践型の実習
第3～4回目	体力、筋力向上②	テーマに応じた実践型の実習
第5～6回目	体力、筋力向上③	テーマに応じた実践型の実習
第7～8回目	体力、筋力向上④	テーマに応じた実践型の実習
第9～10回目	体力、筋力向上⑤	テーマに応じた実践型の実習
第11～12回目	体力、筋力向上⑥	テーマに応じた実践型の実習
第13～14回目	体力、筋力向上⑦	テーマに応じた実践型の実習
第15～16回目	体力、筋力向上⑧	テーマに応じた実践型の実習
第17～18回目	体力、筋力向上⑨	テーマに応じた実践型の実習
第19～20回目	体力、筋力向上⑩	テーマに応じた実践型の実習
第21～22回目	体力、筋力向上⑪	テーマに応じた実践型の実習
第23～24回目	体力、筋力向上⑫	テーマに応じた実践型の実習
第25～26回目	体力、筋力向上⑬	テーマに応じた実践型の実習
第27～28回目	体力、筋力向上⑭	テーマに応じた実践型の実習
第29～30回目	体力、筋力向上⑮	テーマに応じた実践型の実習

科目名	ペットエステ・美容学 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペットグルーミング、ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	グルーミング器具、トリマーのためのベーシックテクニック(緑書房)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウィネット)PEIA教本(ブロンズ、シルバー、ゴールド)		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング器具、トリマーのためのベーシックテクニック(緑書房)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウィネット)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	グルーミングと環境	トリミングとはなにか、トリミングルーム、トリマーとは、トリマーの健康のために
第2回目	グルーミング・ツール	ハサミ、クリッパー、トリミングナイフ、ブラシ、コーム、その他グルーミングツール
第3回目	バイジング	ブラッシングの基本、耳掃除、シャンプー、ドライイング、
第4回目	犬の保定	犬の保定と心がまえ、保定の基本
第5回目	犬体の基礎	犬の体の基礎知識、犬のお手入れについて
第6回目	グルーミング用語	基本のトリミング用語
第7回目	クリッピングとシザーリング	面と角のとらえ方、顔と足のクリッピング、ボディのクリッピング
第8回目	ペットエステティック①	エステティック概論、国際協会、PEIAの信条
第9回目	ペットエステティック②	シャンプー、コンディショナー理論
第10回目	ペットエステティック③	アロマバス
第11回目	ペットエステティック④	肉球ケア
第12回目	ペットエステティック⑤	タラソーセラピー、マッサージコース
第13回目	ラムクリップ①	ラムクリップとは、ラムクリップのアウトライン
第14回目	ラムクリップ②	ラムクリップの手順、ラムクリップのバランス
第15回目	ラムクリップ③	ラムクリップまとめ

科目名	ペットエステ・美容学Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペットグルーミング、ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催サロントリマー検定3級の合格を目指す。 ペットエステティック国際協会ジャパン資格ブロンズの合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシックテクニック(緑書房)、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウィネット)PEIA教本(ブロンズ、シルバー、ゴールド)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	グルーマー獣医学①	健康の確認、病気の早期発見
第2回目	グルーマー獣医学②	皮膚の疾患、その他の疾患、感染症について
第3回目	グルーマー獣医学③	各部の構造
第4回目	グルーマー獣医学④	歯列咬合
第5回目	犬の基礎知識①	犬の分類、犬種、原産国、グループ
第6回目	犬の基礎知識②	犬の分類、犬種、原産国、グループ
第7回目	犬の基礎知識③	特徴、性格、犬種別応用
第8回目	犬の基礎知識④	犬の毛色、被毛、毛質
第9回目	ラムクリップ④	ラムクリップの手順、ラムクリップのバランス
第10回目	ラムクリップ⑤	ラムクリップのアウトライン
第11回目	ラムクリップ⑥	ラムクリップのアウトライン
第12回目	ラムクリップ⑦	ラムクリップまとめ
第13回目	ラムクリップ⑧	ラムクリップまとめ
第14回目	ラムクリップ⑨	ラムクリップまとめ
第15回目	ラムクリップ⑩	ラムクリップまとめ

科目名	公衆衛生・動物関連法規		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	環境、疫学、人畜共通感染症、動物の愛護及び適正飼養に関する様々な法規についてについて学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用、人と動物の共生のあり方等を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	公衆衛生学、動物関連法規について理解し、衛生管理や法律について正しい知識を修得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	公衆衛生の概要①	公衆衛生の目的、公衆衛生行政について理解する
第2回目	疫学と疾病予防①	感染の成立、疾病、健康障害の発生要因について理解する
第3回目	疫学と疾病予防②	人獣共通感染症とその対策について理解する
第4回目	疫学と疾病予防③	人獣共通感染症とその対策について理解する
第5回目	疫学と疾病予防④	狂犬病予防について理解する
第6回目	環境衛生①	衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する
第7回目	環境衛生②	動物の咬傷による人への健康障害について理解する
第8回目	食品衛生	動物性食品の衛生について理解する
第9回目	動物関連法規	各法規が対象とする動物種について理解する
第10回目	動物愛護法①	法の目的、第1、2種取扱業者について理解する
第11回目	動物愛護法②	特定動物、犬の引き取りなどについて理解する
第12回目	動物愛護法③	行政の役割について理解する
第13回目	ペットフード安全法	ペットフード安全法について理解する
第14回目	身体障がい者補助犬法	法の目的、義務などを理解する
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	エキゾチックアニマル学		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	新井 さき	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	エキゾチックアニマルの種類や飼養方法、病気などについて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	エキゾチックアニマルを適正に扱うことができる知識を身につける。愛玩動物飼養管理士の資格取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ペットの飼養管理 (日本愛玩動物協会)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ウサギ①	生物観と飼育難易度、生物学的特徴、生物学的分類
第2回目	ウサギ②	品種とその特徴、身体検査、飼育方法、環境、消化に関する仕組み
第3回目	ウサギ③	雌雄判別、繁殖、妊娠、看護、疾患、治療
第4回目	ハムスター①	生物観と飼育難易度、品種、生物学的特徴
第5回目	ハムスター②	生物学的分類、身体検査、飼育環境
第6回目	ハムスター③	繁殖、看護、疾患
第7回目	鳥①	生物観と飼育難易度、品種、生物学的特徴
第8回目	鳥②	生物学的分類、身体検査、飼育環境
第9回目	鳥③	繁殖、看護、疾患
第10回目	チンチラ①	生物観と飼育難易度、品種、生物学的特徴
第11回目	チンチラ②	生物学的分類、身体検査、飼育方法、環境
第12回目	チンチラ③	繁殖、看護、疾患
第13回目	フェレット①	生物観と飼育難易度、品種、生物学的特徴
第14回目	フェレット②	生物学的分類、身体検査、飼育環境
第15回目	フェレット③	繁殖、看護、疾患

科目名	ペット栄養学		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を理解し、愛玩動物飼養管理士の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	犬と猫の栄養学 (緑書房)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	基礎栄養学①	栄養素とエネルギー
第2回目	基礎栄養学②	エネルギーとエネルギー要求量
第3回目	基礎栄養学③	6大栄養素の働きと特性①
第4回目	基礎栄養学④	6大栄養素の働きと特性②
第5回目	基礎栄養学⑤	消化と吸収
第6回目	基礎栄養学⑥	犬と猫の味覚、危険な食べ物
第7回目	ペットフード①	歴史と規制、種類
第8回目	ペットフード②	ラベル表示、読み方
第9回目	ペットフード③	ペットフードの選び方
第10回目	ペットフード④	給与方法、ライフステージ別栄養管理
第11回目	ペットフード⑤	手作りおやつ
第12回目	臨床栄養学①	病態と食事管理、療法食①
第13回目	臨床栄養学②	病態と食事管理、療法食②
第14回目	臨床栄養学③	病態と食事管理、療法食③
第15回目	臨床栄養学④	病態と食事管理、療法食④

科目名	犬・猫の病気		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	犬、猫の健康状態を把握することで、病気の早期発見ができる知識を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬、猫の病気を学び、些細な異変にも気づき、飼い主様に頼られる人材を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	わかる犬の病気 (エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	全身チェック	全身状態
第2回目	共通感染症	共通感染症とは
第3回目	病気の知識①	皮膚の病気①
第4回目	病気の知識②	皮膚の病気②
第5回目	病気の知識③	耳の病気①
第6回目	病気の知識④	耳の病気②
第7回目	病気の知識⑤	目の病気①
第8回目	病気の知識⑥	目の病気②
第9回目	病気の知識⑦	鼻と口の病気①
第10回目	病気の知識⑧	鼻と口の病気②
第11回目	病気の知識⑨	お尻、お腹のまわりの病気①
第12回目	病気の知識⑩	お尻、お腹のまわりの病気②
第13回目	病気の知識⑪	足先、膝、腰まわりの病気①
第14回目	病気の知識⑫	足先、膝、腰まわりの病気②
第15回目	まとめ	総まとめ

科目名	グルーミング実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	240時間	年間取得単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 伊井 由莉香 小木曾 佳美 原田 明里 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。 シャンプーコース(各部バリカン、部分カットを含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催サロントリマー検定3級およびPEIA(プロンズ)の資格取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシック・テクニック(緑書房)トリマー検定、サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義を学ぶ機会なども取り入れていく場合もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1～8回目	グルーミング基礎①	グルーミングの説明と道具について
第9～16回目	グルーミング基礎②	ウィッグでの道具の基礎練習
第17～24回目	グルーミング基礎③	ウィッグでの道具の基礎練習
第25～32回目	グルーミング基礎④	ウィッグでの道具の基礎練習
第33～40回目	グルーミング基礎⑤	ウィッグでの道具の基礎練習
第41～48回目	グルーミング基礎⑥	ウィッグでの道具の基礎練習
第49～56回目	グルーミング①	実習犬でのお手入れ、ブラッシング実習
第56～64回目	グルーミング②	実習犬でのシャンプー実習
第65～72回目	グルーミング③	実習犬でのシャンプー実習
第73～80回目	グルーミング④	実習犬でのシャンプー実習
第81～88回目	グルーミング⑤	実習犬でのシャンプー実習、部分カット実習
第89～96回目	グルーミング⑥	実習犬でのシャンプー実習、部分カット実習
第97～104回目	グルーミング⑦	実習犬でのシャンプー実習、部分カット実習
第105～112回目	グルーミング⑧	実習犬でのシャンプー実習、部分カット実習
第113～120回目	グルーミング⑨	実習犬でのシャンプー実習、部分カット実習

科目名	グルーミング実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	180時間	年間取得単位数	6単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 伊井 由莉香 小木曾 佳美 原田 明里 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方、グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。 カットコース(全身バリカン、顔カット、部分カット、シャンプーコースを含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催サロントリマー検定3級およびPEIA(プロンズ)の資格取得を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、トリマーのためのベーシック・テクニック(緑書房)トリマー検定、サロントリマー検定公式模擬問題集(株式会社ウイネット)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実習になるが、テーマによっては講義を学ぶ機会なども取り入れていく場合もある。		

授業計画	テーマ	内容
第1～6回目	グルーミング⑩	シャンプー実習、カット実習
第7～12回目	グルーミング⑪	シャンプー実習、カット実習
第13～18回目	グルーミング⑫	シャンプー実習、カット実習
第19～24回目	グルーミング⑬	シャンプー実習、カット実習
第25～30回目	グルーミング⑭	シャンプー実習、カット実習
第31～36回目	グルーミング⑮	シャンプー実習、カット実習
第37～42回目	グルーミング⑯	シャンプー実習、カット実習
第43～48回目	グルーミング⑰	シャンプー実習、カット実習
第49～54回目	グルーミング⑱	シャンプー実習、カット実習
第55～60回目	グルーミング⑲	シャンプー実習、カット実習
第61～66回目	グルーミング⑳	シャンプー実習、カット実習
第67～72回目	グルーミング基礎⑦	ペットカットの練習
第73～78回目	グルーミング基礎⑧	ペットカットの練習
第79～84回目	グルーミング基礎⑨	ペットカットの練習
第85～90回目	グルーミング基礎⑩	ペットカットの練習

科目名	動物飼育実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	主に動物種ごとの生態と管理方法を学ぶ。また、実際に飼育することで飼育管理に必要な観察力と動物福祉の精神、衛生管理、動物のハンドリングを身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	犬や猫、魚類の扱いや飼育方法を学び、知識のみでなく実践で活用できるようにする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布プリント		
成績評価の方法・基準	飼育管理実習での態度で評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業は、主に飼育実習を通じて実施するが、必要に応じて講義等も取り入れる場合がある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物飼育実習について①	飼育管理内容、ふさわしい身だしなみ、飼育管理への向き合い方
第2回目	動物飼育実習について②	飼育管理内容、ふさわしい身だしなみ、飼育管理への向き合い方
第3回目	管理動物について①	飼育管理動物別の管理方法、注意点
第4回目	管理動物について②	飼育管理動物別の扱い方
第5回目	犬の扱い方①	犬の抱き方、保定の方法
第6回目	犬の扱い方②	保定の方法、バイタルチェック
第7回目	犬の扱い方③	犬同士の遊びの種類や、人との遊びについて
第8回目	猫の扱い方①	猫の抱き方、保定の方法
第9回目	猫の扱い方②	保定の方法、バイタルチェック
第10回目	猫の扱い方③	猫同士の遊びの種類や、人との遊びについて
第11回目	成犬猫と仔犬猫の違い	ライフステージ別の違い、注意点
第12回目	犬の管理①	犬の散歩の意義、方法と対応①
第13回目	犬の管理②	犬の散歩の方法と対応
第14回目	魚の管理①	魚の管理方法、給餌
第15回目	魚の管理②	水槽掃除の方法と手順

科目名	動物飼育実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	小動物や爬虫類の扱いや飼育方法を学び、知識のみでなく実践で活用できるようにする。また、飼育管理時の危機管理についても理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	配布プリント		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業は、主に飼育実習を通じて実施するが、必要に応じて講義等も取り入れる場合がある。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	小動物の飼育管理①	小動物という生き物、動物種ごとの飼育管理方法
第2回目	小動物の飼育管理②	動物種ごとの掃除方法、扱い方①
第3回目	小動物の飼育管理③	動物種ごとの掃除方法、扱い方②
第4回目	爬虫類の飼育管理①	爬虫類とは、動物種ごとの飼育管理方法①
第5回目	爬虫類の飼育管理②	種類ごとの飼育管理方法②
第6回目	爬虫類の飼育管理③	種類ごとの扱い方
第7回目	衛生管理①	衛生的な管理が必要な理由
第8回目	衛生管理②	衛生的に管理する方法
第9回目	衛生管理③	衛生的な管理の実践と継続
第10回目	危機管理①	危機管理の重要性
第11回目	危機管理②	危険個所の予防策や対処法
第12回目	実習まとめ①	お互いの動きに注意し、協調性をもつ
第13回目	実習まとめ②	効率よく動くための工夫
第14回目	実習まとめ③	動物飼育管理について考える
第15回目	実習まとめ④	飼育管理の指導方法について考える

科目名	ペットトレーニング実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛 原田 文博	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	犬の正しい扱い方を学ぶ。また、トリミングを嫌がらずに受け入れられるようにするトレーニング方法を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	基本的な犬の扱い方やトレーニング方法を理解する。また、それらの知識、技術がトリミングに応用できるようになる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	授業の進め方	実習の注意事項、備品準備説明
第2回目	犬の接し方	犬への近づき方、ほめ方、触り方
第3回目	しつけの意義や役割	しつけの必要性、しつけをしないことによる弊害
第4回目	トレーニングの進め方①	トレーニングの意義、目標設定
第5回目	トレーニングの進め方②	設定したトレーニングの実践、検証
第6回目	しつけの学習理論①	行動観察、生得的行動と習得的行動
第7回目	しつけの学習理論②	古典的条件付け、オペラント条件付けの概要
第8回目	しつけの学習理論③	学習理論に則ったトレーニング実践①
第9回目	しつけの学習理論④	学習理論に則ったトレーニング実践②
第10回目	犬の社会化について①	犬の経時的発達、社会化期の特徴
第11回目	犬の社会化について②	社会化トレーニングのやり方、実践
第12回目	グルーミングとしつけ①	グルーミングにおけるしつけの必要性
第13回目	グルーミングとしつけ②	グルーミングを嫌がらずに受入れるトレーニング
第14回目	グルーミングとしつけ③	グルーミングを嫌がらずに受入れるトレーニング
第15回目	期末試験対策	期末試験に向けたトレーニング

科目名	ペットトレーニング実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛 原田 文博	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	犬の正しい扱い方を学ぶ。また、トリミングを嫌がらずに受け入れられるようにするトレーニング方法を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	基本的な犬の扱い方やトレーニング方法を理解する。また、それらの知識、技術がトリミングに応用できるようになる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	トレーニング理論①	状況確認、トレーニングプランの立て方
第2回目	トレーニング理論②	段階的トレーニング方法
第3回目	トレーニング①	台の上に慣れさせるトレーニング
第4回目	トレーニング②	ブラッシングに慣れさせるトレーニング①
第5回目	トレーニング③	ブラッシングに慣れさせるトレーニング②
第6回目	トレーニング④	爪切りに慣れさせるトレーニング①
第7回目	トレーニング⑤	爪切りに慣れさせるトレーニング②
第8回目	トレーニング⑥	耳のケアに慣れさせるトレーニング①
第9回目	トレーニング⑦	耳のケアに慣れさせるトレーニング②
第10回目	トレーニング⑧	口腔内ケアに慣れさせるトレーニング①
第11回目	トレーニング⑨	口腔内ケアに慣れさせるトレーニング②
第12回目	まとめ①	1年間のトレーニング復習①
第13回目	まとめ②	1年間のトレーニング復習②
第14回目	まとめ③	1年間のトレーニング復習③
第15回目	期末試験対策	期末試験に向けたトレーニング

科目名	動物美容総合実習 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	様々なペット関連企業でトリマーとしての役割を知る。自分の理想とするトリマーになる為に自己の課題を見つけ、キャリアデザインを設計する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	トリマーとして必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	原則学校が定めた企業において実施する。なお実習中に不測の事態が生じた場合は、三者（学校・学生・動物企業）で協議して行う。評価は実習評価表に実習先より評価をいただく。		
履修に当たっての留意点	90時間履修しなければならない。		

授業計画	
<p>実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。</p> <p>動物企業現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。</p> <p>1. 実習準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前訪問予約 ・ 持ち物・実習の内容等確認 <p>2. 実習（実務型実習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸注意事項確認 ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価） ・ 清掃 ・ グルーミング業務 <p>3. 実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習日誌まとめ提出 ・ お礼状 	

科目名	検定対策 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	テキスト、過去問題集など。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	愛玩動物飼養管理士①	課題問題①
第2回目	愛玩動物飼養管理士②	課題問題②
第3回目	愛玩動物飼養管理士③	課題問題③
第4回目	愛玩動物飼養管理士④	課題問題④
第5回目	愛玩動物飼養管理士⑤	課題問題⑤
第6回目	愛玩動物飼養管理士⑥	課題問題⑥
第7回目	愛玩動物飼養管理士⑦	課題問題⑦
第8回目	愛玩動物飼養管理士⑧	課題問題⑧
第9回目	愛玩動物飼養管理士⑨	課題問題⑨
第10回目	愛玩動物飼養管理士⑩	課題問題⑩
第11回目	サロントリマー検定①	課題問題①
第12回目	サロントリマー検定②	課題問題②
第13回目	サロントリマー検定③	課題問題③
第14回目	サロントリマー検定④	課題問題④
第15回目	サロントリマー検定⑤	課題問題⑤

科目名	検定対策Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	演習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト、過去問題集など。		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	愛玩動物飼養管理士⑪	課題問題⑪
第2回目	愛玩動物飼養管理士⑫	課題問題⑫
第3回目	愛玩動物飼養管理士⑬	課題問題⑬
第4回目	愛玩動物飼養管理士⑭	課題問題⑭
第5回目	愛玩動物飼養管理士⑮	課題問題⑮
第6回目	社会人常識マナー検定①	過去問題集①
第7回目	社会人常識マナー検定②	過去問題集②
第8回目	社会人常識マナー検定③	過去問題集③
第9回目	社会人常識マナー検定④	過去問題集④
第10回目	社会人常識マナー検定⑤	過去問題集⑤
第11回目	サロントリマー検定⑥	課題問題⑥
第12回目	サロントリマー検定⑦	課題問題⑦
第13回目	サロントリマー検定⑧	課題問題⑧
第14回目	サロントリマー検定⑨	課題問題⑨
第15回目	サロントリマー検定⑩	課題問題⑩

科目名	就職実務 I		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	就職活動に向けて自己理解や協調性、心構えなどを学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	未来ノート、履歴書、その他就職活動準備に必要な教材		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	未来ノート①	話し合いの意義
第2回目	未来ノート②	自己理解①「私の大切なもの探し」
第3回目	未来ノート③	自己理解②「私ってどんな人？」
第4回目	未来ノート④	自己理解③「自分を知る手がかり」
第5回目	未来ノート⑤	自己理解④「過去を振り返ろう」
第6回目	話し方①	発声、表情の練習
第7回目	話し方②	話題の作り方
第8回目	美文字練習①	ペン字（ひらがな、カタカナ、漢字）
第9回目	美文字練習②	ペン字（アルファベット、数字、文章）
第10回目	履歴書準備①	履歴書に記載する内容の整理
第11回目	履歴書準備②	履歴書に記載する内容の確認
第12回目	職場のマナー①	職場における様々なマナーを理解する
第13回目	職場のマナー②	来客対応を理解する
第14回目	身だしなみ①	就職活動における身だしなみを理解する
第15回目	身だしなみ②	就職活動における身だしなみを理解する

科目名	就職実務Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	企業研究①	企業研究の意味、目的、やり方
第2回目	企業研究②	就職を視野に入れている企業について調べる
第3回目	社会保障①	社会保障制度の種類や目的について理解する
第4回目	社会保障②	各社会保障制度の内容について理解する
第5回目	美文字練習③	履歴書の記載内容①
第6回目	美文字練習④	履歴書の記載内容②
第7回目	自己啓発①	自分に自信を持つための自己啓発学習
第8回目	自己啓発②	自分に自信を持つための自己啓発学習
第9回目	履歴書作成①	履歴書を書く
第10回目	履歴書作成②	履歴書を書く
第11回目	企業訪問①	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第12回目	企業訪問②	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第13回目	企業訪問③	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第14回目	電話応対	電話のかけ方、話し方のマナーを理解する
第15回目	御礼状の書き方	企業に向けた実習後の御礼状の書き方

科目名	特別課外授業		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次・通年
授業時数	—	年間取得単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	学校行事、ボランティア活動を通じて個々の成長、経験に繋げ人間力の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	コミュニケーション能力向上・社会経験を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	各行事の出席状況・積極性により認定する。		
履修に当たっての留意点	各行事の目的を理解し、各々の成長に繋がるよう積極的に参加すること。		

授業計画	
1. 出席認定基準	1日の出席を6時間と換算し、10日分以上の出席で認定とする。
2. 主な行事一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習 ・学園祭（準備期間含む） ・国内研修旅行 ・飼育セミナー ・フィールドワーク ・スポーツフェスティバル ・その他、学校が認める行事及び各種ボランティア
3. 行事運営の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・目的の確認 ・事前準備 ・行事参加 ・振り返り（感想、次回への引継ぎ事項等）

科目名	ペット美容学Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース（各部バリカン、部分カット含む）を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会サロントリマー検定1級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック（エデュワードプレス）、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集（株式会社ウイネット）		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び学期末試験の点数を考慮し評価する。ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	講義が中心になるが道具や動物に触る機会があるなら取り入れる。実習を意識した学習を行うように心掛ける。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	ショップにおける基本知識①	受付、対応について
第3～4回目	ショップにおける基本知識②	受付、対応について
第5～6回目	ショップでのペットカット①	基本スタイル、テディベアカットの作り方
第7～8回目	ショップでのペットカット②	基本スタイル、テディベアカットの作り方
第9～10回目	ショップでのペットカット③	応用スタイル、アフロ、モヒカン、マスタッシュ、その他のスタイル
第11～12回目	ショップでのペットカット④	応用スタイル、アフロ、モヒカン、マスタッシュ、その他のスタイル
第13～14回目	トリミング①	プードルの容姿と特徴
第15～16回目	トリミング②	プードルのカットの手順と要点
第17～18回目	トリミング③	ミニチュアシュナウザーの容姿と特徴
第19～20回目	トリミング④	ミニチュアシュナウザーのカットの手順と要点
第21～22回目	トリミング⑤	ミニチュアシュナウザーのショークリップ
第23～24回目	トリミング⑥	ミニチュアシュナウザーまとめ
第25～26回目	トリミング⑦	ビションフリーゼの容姿と特徴
第27～28回目	トリミング⑧	ビションフリーゼのカットの手順と要点
第29～30回目	トリミング⑨	カットテクニックの復習、まとめ

科目名	ペット美容学Ⅳ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース（各部バリカン、部分カット含む）を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定1級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック（エデュワードプラス）、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集（株式会社ウイネット）		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び学期末試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	講義が中心になるが道具や動物に触る機会があるなら取り入れる。実習を意識した学習を行うように心掛ける。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	トリミング①	シーズーの容姿と特徴
第3～4回目	トリミング②	シーズーのカットの手順と要点
第5～6回目	トリミング③	ヨークシャーテリアの容姿と特徴
第7～8回目	トリミング④	ヨークシャーテリアのカットの手順と要点
第9～10回目	トリミング⑤	マルチーズの容姿と特徴
第11～12回目	トリミング⑥	マルチーズのカット手順と要点
第13～14回目	トリミング⑦	ポメラニアン容姿と特徴
第15～16回目	トリミング⑧	ポメラニアンのカット手順と要点
第17～18回目	トリミング⑨	シェルティーの容姿と特徴
第19～20回目	トリミング⑩	シェルティーのカットの手順と要点
第21～22回目	トリミング⑪	ウェスティの容姿と特徴
第23～24回目	トリミング⑫	ウェスティのカットの手順と要点
第25～26回目	トリミング⑬	シェルティーの容姿の特徴と要点
第27～28回目	トリミング⑭	Aコッカーの容姿と特徴
第29～30回目	トリミング⑮	Aコッカーのカットの手順と要点

科目名	ペットエステ学Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	PEIA ゴールドクラス		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	PEIA教本 (ゴールド)		
成績評価の方法・基準	平常点及び学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	概論	ペットマッサージ概論
第3～4回目	技法①	ツボ①
第5～6回目	技法②	ツボ②
第7～8回目	技法③	ツボ③
第9～10回目	アロマ①	アロマセラピーの復習
第11～12回目	アロマ②	アロマセラピーの復習
第13～14回目	技法④	カッサ①
第15～16回目	技法⑤	カッサ②
第17～18回目	総まとめ	ゴールドまとめ
第19～20回目	実習①	講習会①
第21～22回目	実習②	講習会②
第23～24回目	実習③	講習会③
第25～26回目	実習④	講習会④
第27～28回目	実習⑤	講習会⑤
第29～30回目	実習⑥	講習会⑥

科目名	ペットエステ学Ⅳ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	60時間	年間取得単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美 木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	ペットエステティックの哲学、理念、を学び、ペットの健康維持、促進を意識した技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	PEIA ゴールドクラス		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	PEIA教本 (ゴールド)		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び学期末試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～2回目	PEIA実習①	マッサージ①
第3～4回目	PEIA実習②	マッサージ②
第5～6回目	PEIA実習③	アロマセラピー①
第7～8回目	PEIA実習④	アロマセラピー②
第9～10回目	PEIA実習⑤	アロマセラピー③
第11～12回目	PEIA実習⑥	タラソーセラピー④
第13～14回目	PEIA実習⑦	タラソーセラピー⑤
第15～16回目	PEIA実習⑧	タラソーセラピー⑥
第17～18回目	PEIA実習⑨	カラーレストレーション⑦
第19～20回目	PEIA実習⑩	カラーレストレーション⑧
第21～22回目	PEIA実習⑪	カラーレストレーション⑨
第23～24回目	PEIA実習⑫	ビビットカラー
第25～26回目	PEIA実習⑬	ビビットカラー⑪
第27～28回目	PEIA実習⑭	ビビットカラー⑫
第29～30回目	総まとめ	PEIAまとめ

科目名	犬・猫の病気Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	吉田 卓史	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	トリミングで実際起こりうるケガや病気の症状、トラブルの対処法について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	トラブルが起きた時に適切な対応が取れるようになる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	わかる犬の病気		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	必須基礎知識①	シャンプー剤について
第2回目	必須基礎知識②	消毒について
第3回目	必須基礎知識③	ワクチン①
第4回目	必須基礎知識④	ワクチン②
第5回目	病気の応答①	飼い主からの質問対応①
第6回目	病気の応答②	飼い主からの質問対応②
第7回目	病気の応答③	飼い主からの質問対応③
第8回目	病気の応答④	飼い主からの質問対応④
第9回目	病気の応答⑤	飼い主からの質問対応⑤
第10回目	トラブル解決①	トリミングトラブル①
第11回目	トラブル解決②	トリミングトラブル⑤
第12回目	トラブル解決③	トリミングトラブル③
第13回目	トラブル解決④	トリミングトラブル④
第14回目	トラブル解決⑤	トリミングトラブル⑤
第15回目	総まとめ	まとめ

科目名	グルーミング実習Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	240時間	年間取得単位数	8単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵 赤坂 成美 原田 明里 伊井 由莉香 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース（各部バリカン、部分カット含む）を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定1級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック（エデュワードプラス）、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集（株式会社ウイネット）		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～8回目	実習①	お客様への対応方法、注意点
第9～16回目	実習②	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第17～24回目	実習③	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第25～32回目	実習④	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第33～40回目	実習⑤	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第41～48回目	実習⑥	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第49～56回目	実習⑦	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第56～64回目	実習⑧	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第65～72回目	実習⑨	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第73～80回目	実習⑩	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第81～88回目	実習⑪	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第89～96回目	実習⑫	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第97～104回目	実習⑬	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第105～112回目	実習⑭	実習犬でのシャンプー、全体カット実習まとめ
第113～120回目	実習⑮	実習犬でのシャンプー、全体カット実習まとめ

科目名	グルーミング実習Ⅳ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	360時間	年間取得単位数	12単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	田中 里恵 赤坂 成美 原田 明里 伊井 由莉香 青木 恋雪	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース（各部バリカン、部分カット含む）を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定1級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具、ドッググルーミングブック（エデュワードプラス）、トリマー検定・サロントリマー検定公式模擬問題集（株式会社ウイネット）		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1～12回目	実習①	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第13～24回目	実習②	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第25～36回目	実習③	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第37～48回目	実習④	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第49～60回目	実習⑤	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第61～72回目	実習⑥	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第73～84回目	実習⑦	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第85～96回目	実習⑧	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第97～108回目	実習⑨	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第109～120回目	実習⑩	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第121～132回目	実習⑪	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第133～144回目	実習⑫	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第145～156回目	実習⑬	実習犬でのシャンプー、全体カット実習
第157～168回目	実習⑭	実習犬でのシャンプー、全体カット実習まとめ
第169～180回目	実習⑮	実習犬でのシャンプー、全体カット実習まとめ

科目名	動物飼育実習Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物飼育実習①	飼育環境を整える
第2回目	動物飼育実習②	飼育環境を整える
第3回目	動物飼育実習③	飼育環境を整える
第4回目	動物飼育実習④	飼育環境を整える
第5回目	動物飼育実習⑤	飼育環境を整える
第6回目	動物飼育実習⑥	飼育環境を整える
第7回目	動物飼育実習⑦	飼育環境を整える
第8回目	動物飼育実習⑧	指導力を身につける
第9回目	動物飼育実習⑨	指導力を身につける
第10回目	動物飼育実習⑩	指導力を身につける
第11回目	動物飼育実習⑪	指導力を身につける
第12回目	動物飼育実習⑫	指導力を身につける
第13回目	動物飼育実習⑬	指導力を身につける
第14回目	動物飼育実習⑭	指導力を身につける
第15回目	動物飼育実習⑮	指導力を身につける

科目名	動物飼育実習Ⅳ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・後期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物飼育実習①	動物種別の健康管理
第2回目	動物飼育実習②	動物種別の健康管理
第3回目	動物飼育実習③	動物種別の健康管理
第4回目	動物飼育実習④	動物種別の健康管理
第5回目	動物飼育実習⑤	動物種別の健康管理
第6回目	動物飼育実習⑥	動物種別の健康管理
第7回目	動物飼育実習⑦	動物種別の健康管理
第8回目	動物飼育実習⑧	動物種別の健康管理
第9回目	動物飼育実習⑨	動物種別の健康管理
第10回目	動物飼育実習⑩	動物種別の健康管理
第11回目	動物飼育実習⑪	飼育管理振り返り
第12回目	動物飼育実習⑫	飼育管理振り返り
第13回目	動物飼育実習⑬	飼育管理振り返り
第14回目	動物飼育実習⑭	飼育管理振り返り
第15回目	動物飼育実習⑮	総まとめ

科目名	動物美容総合実習Ⅱ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	90時間	年間取得単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	現場実習を通じてトリマーとしての自身の在り方や方向性を考える。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	トリマーとして必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不測の事態が生じた場合は、学校・学生・動物病院で協議する。評価は学校が定めた実習評価表に実習先より評価をいただく。		
履修に当たっての留意点	90時間習得しなければならない。		

授業計画	
<p>実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。</p> <p>動物関連企業の現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。</p> <p>1. 実習準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前訪問予約 ・ 持ち物・実習の内容等確認 <p>2. 実習（実務型実習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 諸注意事項確認 ・ 実習日誌を書く（感想・反省・自己評価） ・ 清掃 ・ グルーミング業務 ・ 接客業務 など <p>3. 実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習日誌まとめ提出 ・ お礼状 ・ 実習を通して得た課題の確認 	

科目名	検定対策Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	赤坂 成美	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	電話対応技能検定4級、ペットフード・ペットマナー検定、動物健康衛生管理士		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト、過去問題集など		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	電話対応技能①	電話対応技能検定4級対策①
第2回目	電話対応技能②	電話対応技能検定5級対策②
第3回目	電話対応技能③	電話対応技能検定6級対策③
第4回目	ペットフードマナー検定①	ペットフードについて①
第5回目	ペットフードマナー検定②	ペットフードについて②
第6回目	動物健康衛生管理士①	動物健康衛生管理士2級検定対策①
第7回目	動物健康衛生管理士②	動物健康衛生管理士3級検定対策②
第8回目	動物健康衛生管理士③	動物健康衛生管理士4級検定対策③
第9回目	動物健康衛生管理士④	動物健康衛生管理士5級検定対策④
第10回目	動物健康衛生管理士⑤	動物健康衛生管理士6級検定対策⑤
第11回目	動物健康衛生管理士⑥	動物健康衛生管理士7級検定対策⑥
第12回目	動物健康衛生管理士⑦	動物健康衛生管理士8級検定対策⑦
第13回目	動物健康衛生管理士⑧	動物健康衛生管理士9級検定対策⑧
第14回目	動物健康衛生管理士⑨	動物健康衛生管理士10級検定対策⑨
第15回目	動物健康衛生管理士⑩	動物健康衛生管理士11級検定対策⑩

科目名	就職実務Ⅲ		
学科名	動物美容学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次・前期
授業時数	30時間	年間取得単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携 ※該当の場合は○	
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験教員科目 ※該当の場合は○	
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不合格となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	インターンシップ振り返り	インターンシップ実習を振り返り、発表する
第2回目	企業研究①	就職希望の企業を研究
第3回目	企業研究②	就職希望の企業を研究
第4回目	企業研究③	就職希望の企業を研究
第5回目	企業研究④	就職希望の企業を研究
第6回目	企業研究⑤	就職希望の企業を研究
第7回目	履歴書①	履歴書の内容確認
第8回目	履歴書②	履歴書の作成
第9回目	履歴書③	履歴書の作成
第10回目	履歴書④	履歴書の作成
第11回目	履歴書⑤	履歴書の作成
第12回目	面接練習①	模擬面接
第13回目	面接練習②	模擬面接
第14回目	面接練習③	模擬面接
第15回目	面接練習③	模擬面接